OmniPass Enterprise Edition V3

システム管理者用マニュアル

第 1.0 版

目次

第一章　はじめに

1-1. OmniPassEE　概要 3

1-2. OmniPassEE の仕様 6

1-3. マニュアルの構成 7

1-4. 本製品に関するお問い合わせ 8

第二章　OmniPassEE 環境の構築

2-1. OmniPassEE の構築 9

2-2. OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール・アンインストール 11

2-3. OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール・アンインストール 20

2-4. OmniPassEE クライアント PC の接続 24

2-5. OmniPassEE クライアントユーザの登録 28

2-6. その他クライアントユーザ・PC の管理 34

第三章　OmniPassEE の管理

3-1. OmniPassEE クライアントユーザの管理 <サーバ側> 39

3-2. 認証デバイスの管理　<サーバ側> 66

3-3. OmniPassEE クライアント PC の管理　<サーバ側> 70

3-4. イベントログについて 77

3-5. ライセンスの追加 81

第四章　付録

4-1. トラブルシューティング 82

4-2. OmniPassEE クライアントユーザのアカウント情報管理について 83

4-3. OmniPassEE クライアントユーザの緊急ポリシーオーバーライド設定について 96

4-4. OmniPassEE クライアントユーザの認証規則の設定について 98

4-5. デフォルトユーザポリシーの設定について 99

4-6. アドミニストレータグループメンバーの設定について 100

用語集

[本マニュアル内での用語定義] 102

第一章　はじめに

1-1. OmniPassEE　概要

OmniPassEE は、ドメインサーバへのログオン認証や暗号化ファイルの共有をドメイン単位で管理するための指紋認証システムサーバソフトです。OmniPassEE は、サーバと一体化することで従来のスタンドアロン型セキュリティソフトウェアでは実現できなかった同一ドメイン内での認証情報の共有や暗号解除鍵を特別に作成しなくても OmniPassEE クライアントユーザ自身の公開鍵で暗号化・復号化できるファイル共有システムを実現しました。OmniPassEE の主な特徴を以下に示します。

[OmniPassEE の特徴]

■Microsoft 標準 MMC コンソールの GUI を元にした管理コンソールを採用。

OmniPassEE クライアントユーザ、OmniPassEE クライアント PC に関する設定・データを Active Directory の操作と同じ要領でサーバから操作・閲覧することができます。

■OmniPassEE クライアントユーザの指紋登録がどの OmniPassEE クライアント PC からでも可能。

一度の登録で全ての OmniPassEE クライアント PC から指紋認証でログオンできるようになります。

■暗号化した情報の共有がより簡単、便利に。

OmniPassEE クライアントユーザの秘密鍵は OmniPassEE サーバ PC に保存され、必要なときに読み出されます。共有対象の OmniPassEE クライアントユーザは、自分の公開鍵でファイルの暗号化を解除し、内容を閲覧することができます。暗号化ファイルを共有する際にも、秘密鍵の受け渡しの必要がない、安全な共有が行えます。また、暗号化されたファイルを同じドメイン内の OmniPassEE クライアントユーザにメールで転送すると、受け取った OmniPassEE クライアントユーザは自分の公開鍵で復号化することができます。

■指定した OmniPassEE サーバ PC または OmniPassEE クライアント PC にイベントログの保存が可能。

OmniPassEE では、OmniPassEE サーバへのログオンや各機能を使用する際に本人認証操作が行われると、その記録を OmniPassEE サーバ PC または OmniPassEE クライアント PC に残すことができます。

［各指紋センサの特徴］

・ SREX-FSU1/FSU1G について

※ SREX-FSU1G は SREX-FSU1 の後継製品です。
双方は、指紋センサ内部の仕様が同一であり、同じドライバソフトウェアおよび、アプリケーションソフトウェアがご使用いただけます。そのため、本ユーザーズマニュアル本文で引用しておりますインストール画面などで[SREX-FSU1]と表記されている箇所がありますが、ご使用上問題ありません。

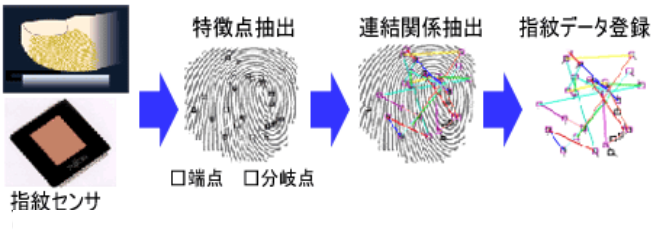
■使いやすく軽量コンパクト

指紋センサに富士通製静電容量式半導体センサ 256×300 ピクセルを搭載。小型でありながらセンサ面が大きく、自然に指を置くことができ、使いやすいデザインになっています。
また、接続ケーブルは指紋センサ本体から取り外せるセパレート式で、ケーブルの取りまわしが良く、持ち運びもコンパクトに扱えます。

■確実な個人認証が可能

指紋認証エンジンに最新のバイオメトリクス技術「特徴点相関方式」を採用。さらに、認証しづらい指紋に対して形状特徴を追加して照合を行う（適応型形状相関法）ことにより、本人受理率 99.96%以上、他人受理率 0.0002%以下の高性能な指紋識別能力を実現しました。また、指紋データは暗号化された非可逆性データで実際の指紋画像には戻せませんので、プライバシー保護も万全です。

「特徴点相関方式」の概念
隆線は指紋の模様を形成する皮膚の盛り上がった部分になり、特徴点には隆線が止まっている部分（端点）と隆線が分岐している部分（分岐点）があります。特徴点相関方式では端点と分岐点のデータのみを使いますので、指紋データが記録されることはありません。



・ SREX-FSU2 について

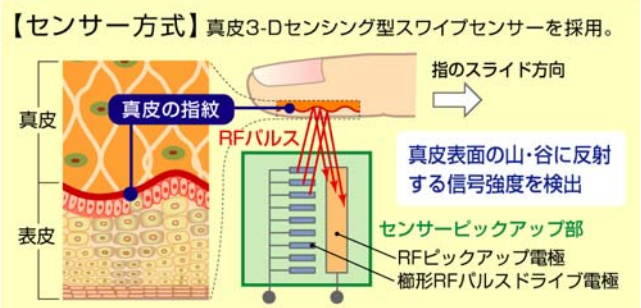
■使いやすく軽量コンパクト

本製品は Validity 社の LiveFlex テクノロジ(高パフォーマンス・耐久性を持つセンサを開発する技術)を採用し、高い信頼性・耐久性を実現したスワイプタイプの指紋センサです。
46.0(W)×64.5(L)×13.0(H)mm/約 40g
と小型・軽量で、指をスライドさせるのに最適なサイズとなっています。

また、接続ケーブルは指紋センサ本体から取り外せるセパレート式で、ケーブルの取りまわしが良く、持ち運びもコンパクトに扱えます。

■真皮指紋認証

SREX-FSU2 は高周波 RF センシング機構により、表皮より約 0.5mm 下の真皮指紋を 立体的に読み取ることで、「乾燥指」「しめった指」「荒れた指」「傷のある指」など、指表面の状態にほとんど左右されず、高い読み取り精度を実現します。



■耐久性

指が直接センサ面に触れないプラスチックフィルムセンサを採用している為、指の接触・衝撃・静電気に高い耐久性を発揮します。

1-2. OmniPassEE の仕様

（1）製品内容

本製品 CD-ROM には、以下のソフトウェアが収録されています。

- ○ OmniPassEE サーバアプリケーション
- ○ OmniPassEE クライアントアプリケーション
- ○ OmniPassEE 管理マニュアル
- ○ OmniPassEE クライアントユーザ用補足マニュアル

（2）製品仕様

対応するオペレーティングシステム(OS)、インターネットブラウザ、必要 HDD 空き容量は下記の通りとなります。

必要なシステム要件［サーバ PC］

対応 OS	Windows Server 2012R2/2012/2008R2/2008 ※64bit 版にも対応
対応ブラウザ	Internet Explorer ※ 全てのバージョンでの動作を保証するものではありません。
必要 HDD 空き容量	90MB 以上

必要なシステム要件［クライアント PC］

対応 OS	Windows 8.1/8/7 ※64bit 版にも対応
対応ブラウザ	Internet Explorer ※ 全てのバージョンでの動作を保証するものではありません。
必要 HDD 空き容量	80MB 以上

ご注意

① 指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

② 本製品を導入・使用によるデータおよびシステムの破損に関しましては一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

③ 本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
また、本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。

④ 本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守およびサポートは行っておりません。

1-3. マニュアルの構成

本マニュアルの第二章「OmniPassEE 環境の構築」からは、指紋認証サーバソフトウェア OmniPassEE の環境を構築する手順について説明を行っています。
第三章「管理」では、OmniPassEE 各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

OmniPassEE 環境を構築される際は、第二章で説明している手順に従ってインストールを行ってください。第三章「OmniPassEE の管理」および第四章「付録」に記載の内容に関しては、ご使用の目的に合わせて必要となる内容をご参照ください。

1-4. 本製品に関するお問い合わせ

本製品に関するご質問は、FAX または、電子メールにて、下記までお問い合わせください。お問い合わせの際には、巻末の「質問用紙」に必要事項をご記入の上、下記 FAX 番号までお送りください。また、電子メールにてお問い合わせの場合は、質問用紙にある項目を下記メールフォームに記述のうえ、送信お願いいたします。

ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合がございますのであらかじめご了承ください。

ラトックシステム株式会社　サポートセンター
〒556-0012　大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル
FAX　06－6633－8285
電子メール（メールフォーム）：http://web1.ratocsystems.com/mail/support.html

ホームページで最新の情報をお届けしております。
http://www.ratocsystems.com

個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、
お客様への回答など本件にかかわる業務のみに使用し、他の目的では使用いたしません。

第二章　OmniPassEE 環境の構築

2-1. OmniPassEE の構築

OmniPassEE の構築には、次の 4 つの作業が必要です。

「2-1-1. OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール」

「2-1-2. OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール」

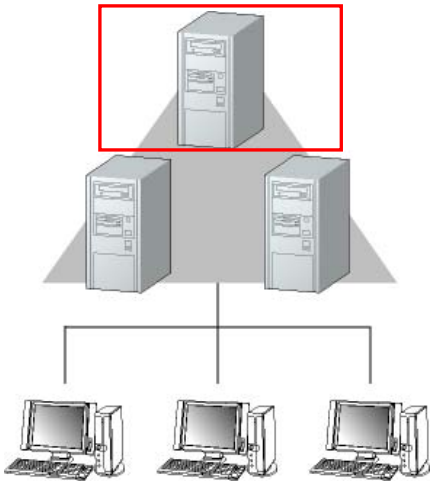
「2-1-3. OmniPassEE クライアント PC の接続」

「2-1-4. OmniPassEE クライアントユーザの登録」

2-1-1. OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール

OmniPassEE サーバになる Active Directory のルートドメイン、または ADAM サーバのインスタンスに OmniPassEE サーバアプリケーションをインストールします。

※　詳細は「2-2. OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール・アンインストール」をご参照ください。



2-1-2. OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール

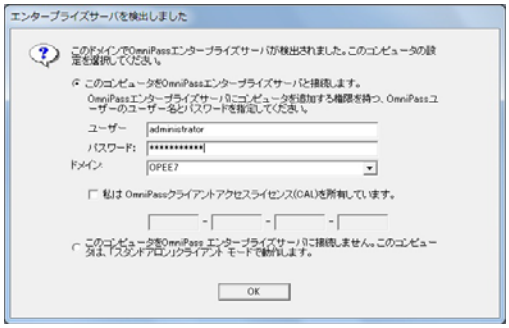
OmniPassEE のクライアントになる PC に OmniPassEE クライアントアプリケーションをインストールします。

※　詳細は「2-3. OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール・アンインストール」をご参照ください。

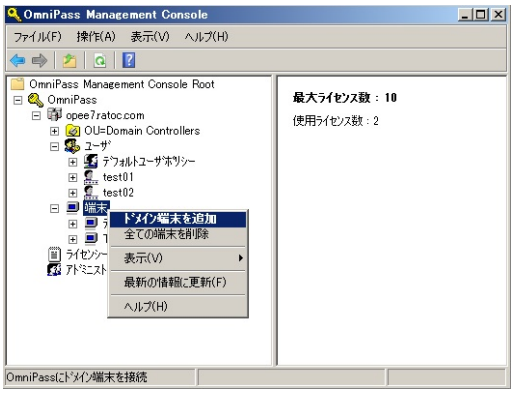
2-1-3. OmniPassEE クライアント PC の接続

クライアント PC の OmniPassEE サーバへの接続には、次の 2 通りの方法があります。

- クライアント PC から接続
- OmniPassEE 管理コンソールから登録



クライアント PC から接続



OmniPassEE 管理コンソールから登録

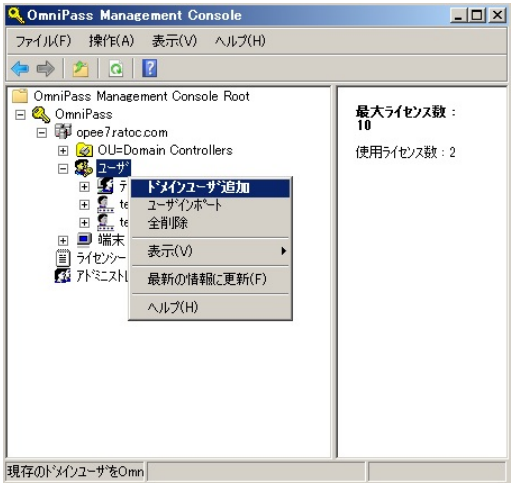
※ クライアント PC の接続方法については、「2-4. OmniPassEE クライアント PC の接続」をご参照ください。

2-1-4. OmniPassEE クライアントユーザの登録

クライアントユーザの OmniPassEE サーバへの登録には、次の 2 通りの方法があります。

- OmniPassEE クライアント PC から登録
- OmniPassEE 管理コンソールから登録

OmniPassEE クライアント PC から登録



OmniPassEE 管理コンソールから登録

※ クライアントユーザの登録方法については、「2-5. OmniPassEE クライアントユーザの登録」をご参照ください。

2-2. OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール・アンインストール

OmniPassEE は Active Directory と ADAM/AD LDS サーバの両方に対応しています。
Active Directory と ADAM/AD LDS サーバへのインストールの手順はほぼ共通ですが、ADAM/AD LDS サーバにインストールする場合、ADAM/AD LDS インスタンスの追加が必要です。本書では、ADAM/AD LDS サーバへのインストールの際に必要な手順を STEP4 に記載しています。本製品を Active Directory にインストールする際は、STEP4 の手順は必要ありません。

OmniPassEE サーバアプリケーションのインストール手順（AD、ADAM/AD LDS サーバ共通）

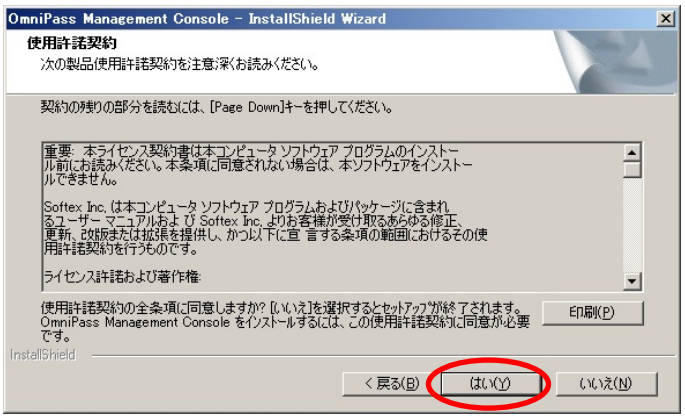
STEP 1

64bit 版 OS の場合
[CD-ROM]¥Enterprise¥Enterprise_x64 にある setup.exe を実行します。
32bit 版 OS の場合
[CD-ROM]¥Enterprise¥Enterprise_x32 にある setup.exe を実行します。

「セットアップへようこそ」の画面で「次へ」をクリックします。

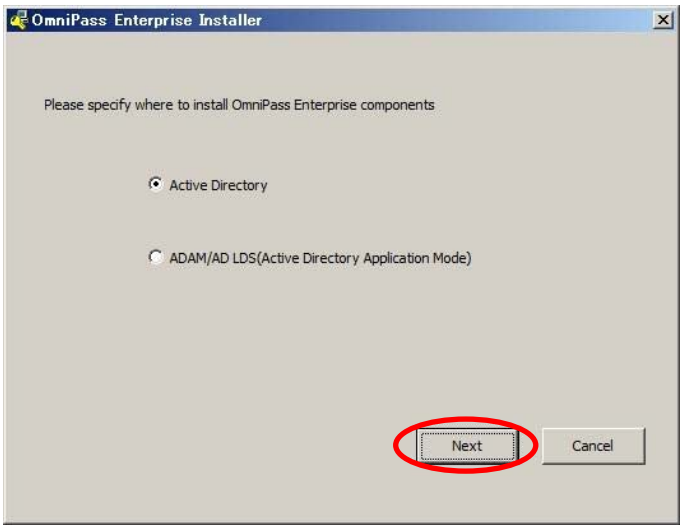
STEP 2

使用許諾書の内容をご確認いただき、同意であれば「はい」をクリックします。



STEP 3

Active Directory か ADAM/AD LDS サーバのどちらにインストールするかを選択し、「次へ」をクリックします。



ADAM/AD LDS サーバにインストールする場合は[STEP4]へ、
Active Directory にインストールする場合は[STEP5]へ進んでください。

ADAM/AD LDS サーバへのインストール手順 (ADAM/AD LDS のみ)

※ Active Directory にインストールする場合は、[STEP5]へ進んでください。

⚠ OmniPassEE を ADAM/AD LDS サーバにインストールする場合、Active Directory と共通のインストール手順に加えて ADAM/AD LDS インスタンスのインストールが必要になります。

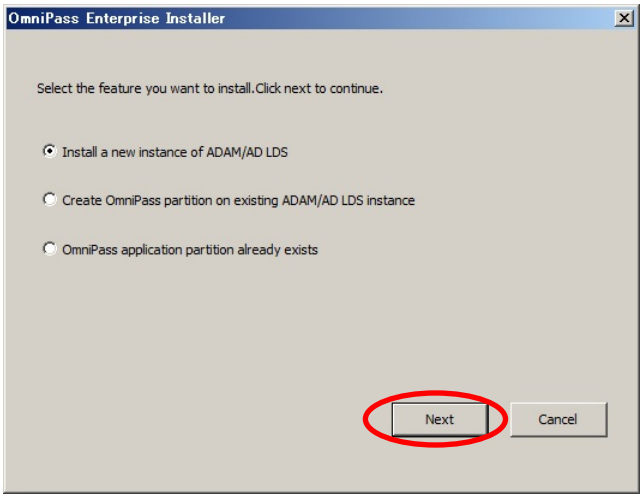
STEP 4

STEP 4-1

セットアップの種類を選択し、
「Next」をクリックします。

以下で、各選択肢について説明します。

以降、次ページの表示された STEP (STEP4-2 または STEP4-4)から作業を進めてください。



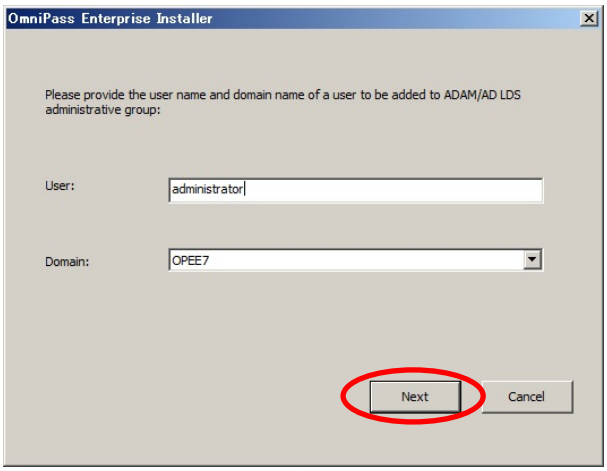
●[Install a new instance of ADAM/AD LDS]
ADAM/AD LDS インスタンスがインストールされていないサーバに OmniPassEE をインストールする場合に選択します。
このセットアップでは、OmniPassInstance という新しいインスタンスがインストールされます。

●[Create OmniPass partition on existing ADAM/AD LDS instance]
ADAM/AD LDS インスタンスがすでにサーバにインストールされていて、OmniPassEE のデータコンテナが存在しない場合に選択します。
(前回アンインストール時に OmniPass データコンテナを削除した場合はインストールしてください。)

●[OmniPass application partition already exists]
ADAM/AD LDS インスタンスがすでにサーバにインストールされていて、OmniPassEE のデータコンテナも存在する場合に選択してください。

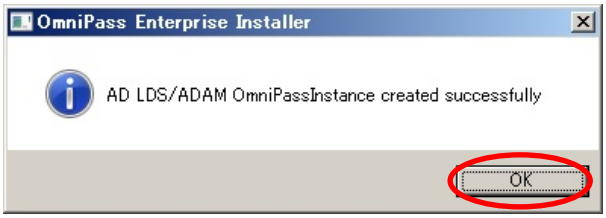
STEP 4-2

管理者となるユーザ名を入力し、
使用サーバのドメインが選択されていることを確認し「Next」をクリックします。



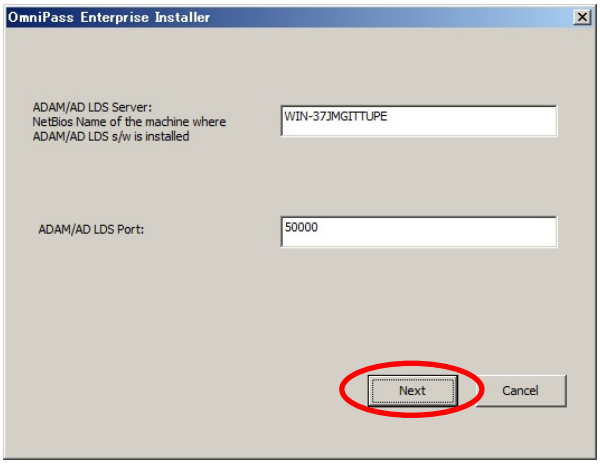
STEP 4-3

OmniPassInstance の作成が成功しましたら右画面が表示されますので
「OK」をクリックします。



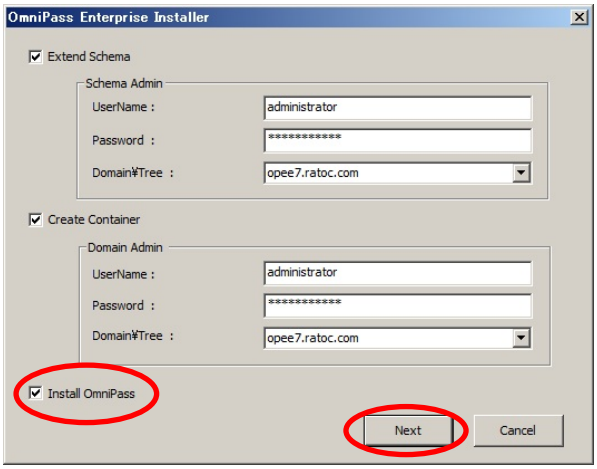
STEP 4-4

NetBIOS 名と ADAM/AD LDS のポートを入力して
「Next」をクリックします。



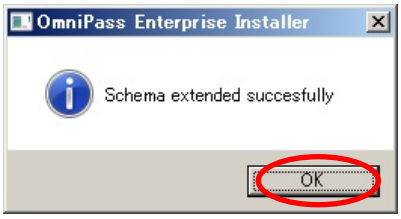
STEP 5

インストールが必要な項目にチェックを入れ、管理者のユーザ名とパスワードを入力し「Next」をクリックします。
(本マニュアルでの説明は64bit版OSでの例となります。
32bit 版 OS での画面は異なりますが同様にインストールしてください。)



一度スキーマを拡張すると、拡張したスキーマを元には戻せませんのでご注意ください。

[Extend Schema]
スキーマを拡張します。
初回インストールの場合はインストールしてください。

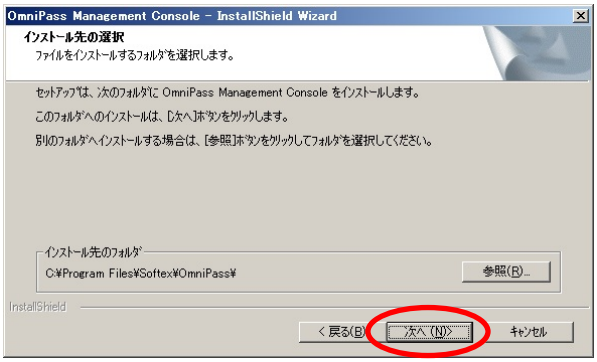


[Create Container]
OmniPass データコンテナを作成します。
初回インストールの場合、もしくは前回アンインストール時に OmniPass データコンテナを削除した場合はインストールしてください。

[Install OmniPass]
必ずチェックを入れてください。

STEP 6

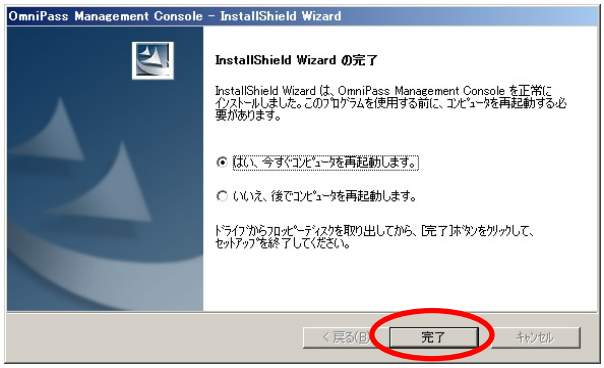
インストール先を選択し「次へ」をクリックします。



STEP 7

以上で、セットアップ完了です。
「完了」をクリックします。

OmniPassEE を有効にするために、サーバ PC を再起動してください。



OmniPassEE サーバアプリケーションのアンインストール手順（AD、ADAM/AD LDS サーバ共通）

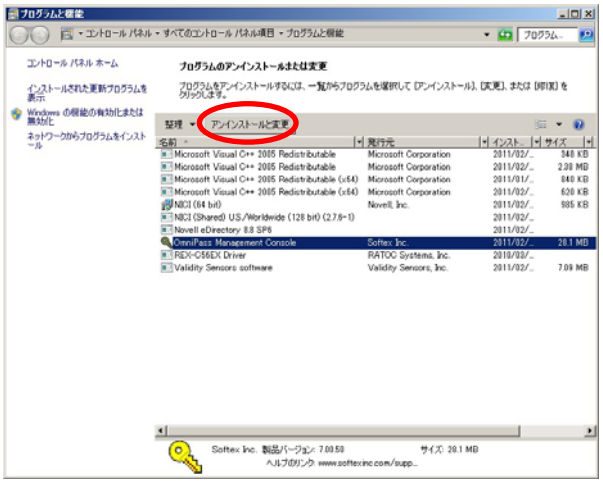
STEP 1

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を起動します。

「OmniPass Management Console」を選択し、「アンインストールと変更」をクリックします。

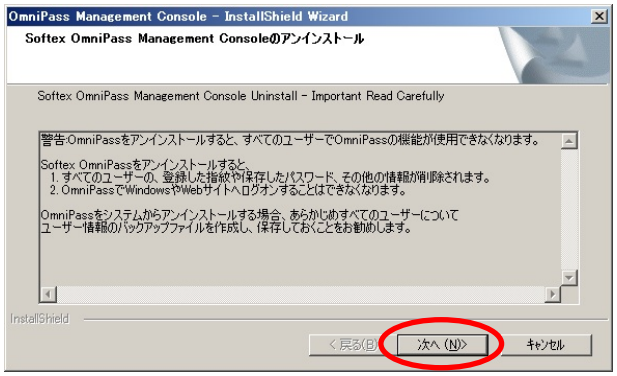
(Windows Server2008 R2 での実行例です。)

または、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Softex」→「Uninstall OmniPass Management Console」を選択します



STEP 2

アンインストールに関する注意事項をご確認いただき「次へ」をクリックします。



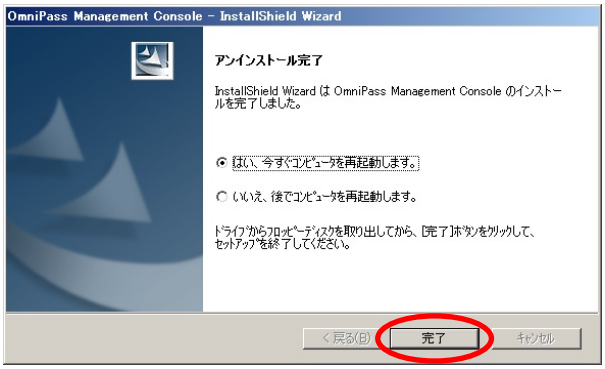
STEP 3

アンインストールする場合は「はい」をクリックします。

STEP 4

以上で、OmniPass Management Console と OmniPass のアンインストールは完了です。

「はい、今すぐにコンピュータを再起動します。」を選択して、「完了」をクリックします。



OmniPass データコンテナの削除につきましては次ページ以降をご参照ください。

ここまでのアンインストール作業で OmniPass Management Console および OmniPass は削除されました。

しかし、登録された OmniPassEE クライアントのユーザ情報・PC 情報・ライセンス情報が OmniPass データコンテナに残っています。

OmniPass データコンテナの削除方法につきましては、以下の手順をご参照ください。

・AD サーバでの削除方法　　--「OmniPass データコンテナの削除(AD サーバ)」

・ADAM/AD LDS サーバでの削除方法 --「OmniPass Instance の削除(ADAM/AD LDS サーバ)」

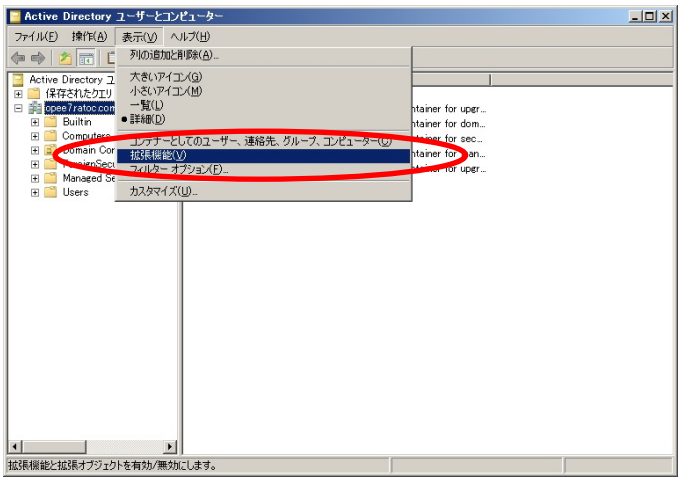
(拡張したスキーマについては、ADAM/AD LDS サーバへ拡張した場合を除き、削除することができません。)

OmniPass データコンテナの削除(AD サーバ)

STEP 1

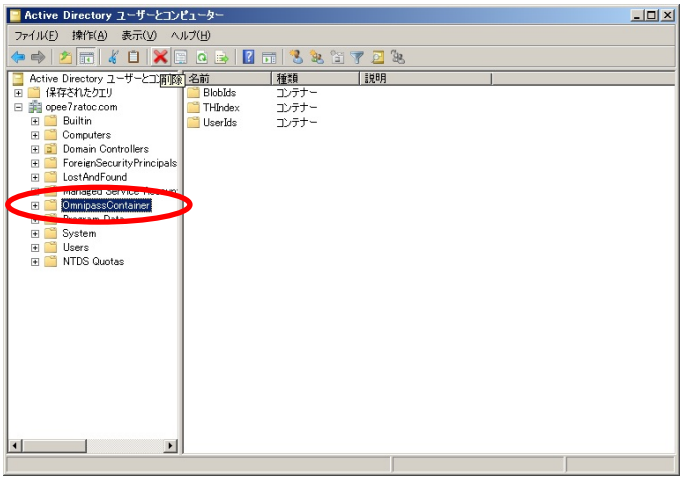
「スタート」メニューから「管理ツール」→「Active Directory ユーザーとコンピューター」を選択します。

「表示」タブを選択し、「拡張機能」をクリックしてチェックを入れます。



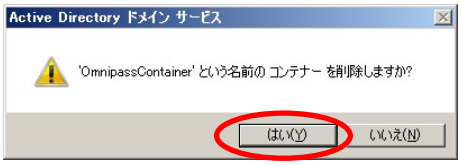
STEP 2

「OmnipassContainer」上で右クリックを行い「削除」を選択します。



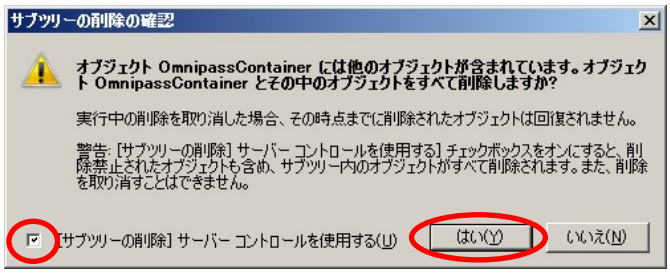
STEP 3

削除する場合は「はい」をクリックします。



STEP 4

「[サブツリーの削除]サーバーコントロールを使用する」にチェックを入れ「はい」をクリックします。

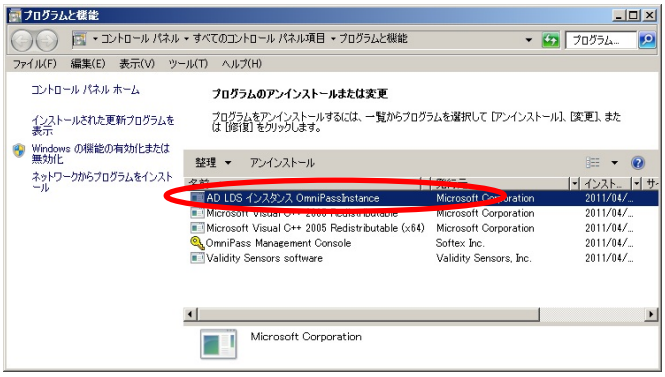


以上で OmniPass データコンテナの削除は完了です。

OmniPass Instance の削除(ADAM/AD LDS サーバ)

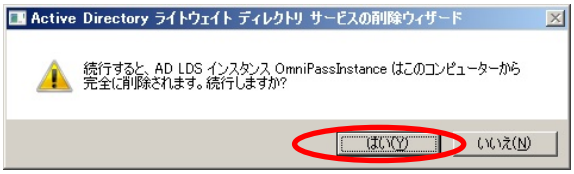
STEP 1

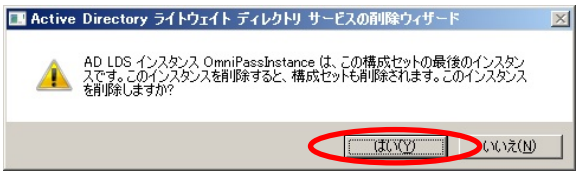
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
「AD LDS インスタンス OmniPassInstance」を選択し、「アンインストール」をクリックします。



STEP 2

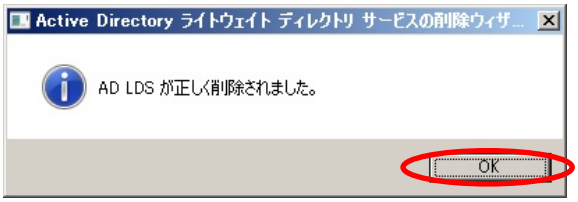
アンインストールする場合は「はい」をクリックします。





STEP 3

以上で OmniPass Instance は削除されました。
「OK」をクリックします。



2-3. OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール・アンインストール

OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール

インストールの前に

（1）OmniPassEE のクライアントアプリケーションをインストールする前に、クライアント PC に SREX-FSU1G/FSU2 をインストールする必要があります。インストールの手順については、SREX-FSU1G/FSU2 のユーザーズマニュアルをご参照ください。

（2）クライアント PC はあらかじめサーバのドメインに接続できるように設定してください。

（3）コンピュータの管理者権限を持つユーザとしてログオンし、インストールを開始してください。

STEP 1

64bit 版 OS の場合

(AD サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥AD_CLIENT¥AD_CLIENT_x64 にある setup.exe を実行します。

(ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥ADAM_CLIENT¥ADAM_CLIENT_x64 にある setup.exe を実行します。

32bit 版 OS の場合

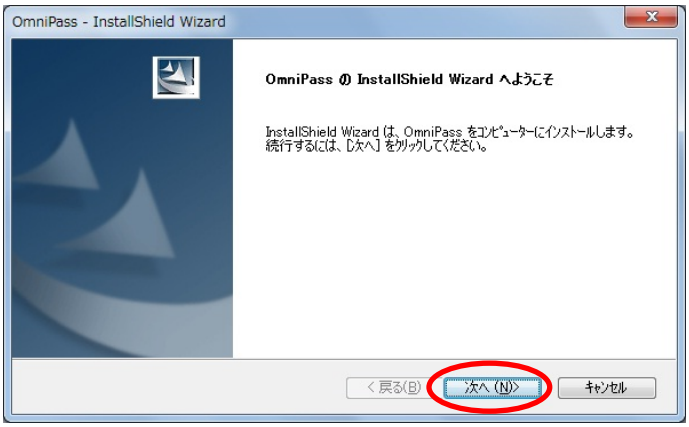
(AD サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥AD_CLIENT¥AD_CLIENT_x32 にある setup.exe を実行します。

(ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合)

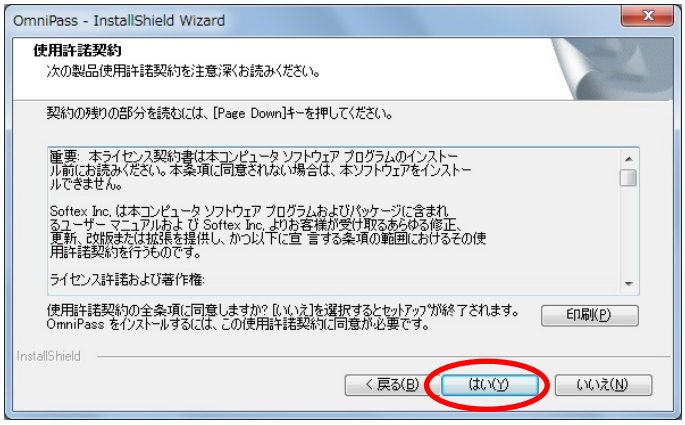
[CD-ROM]¥ADAM_CLIENT¥ADAM_CLIENT_x32 にある setup.exe を実行します。

「セットアップへようこそ」の画面で「次へ」をクリックします。



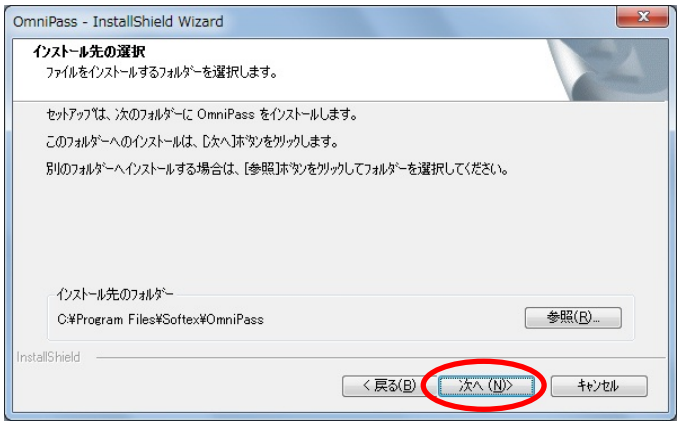
STEP 2

使用許諾書の内容をご確認いただき、同意であれば「はい」をクリックします。



STEP 3

OmniPassEE クライアントのインストール先を選択し、「次へ」をクリックします。

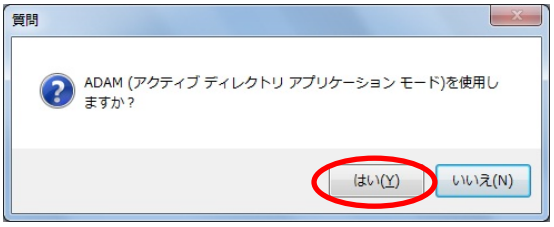


※ AD サーバへ接続する場合、STEP4 は表示されません。STEP5 へ進んでください。

STEP 4

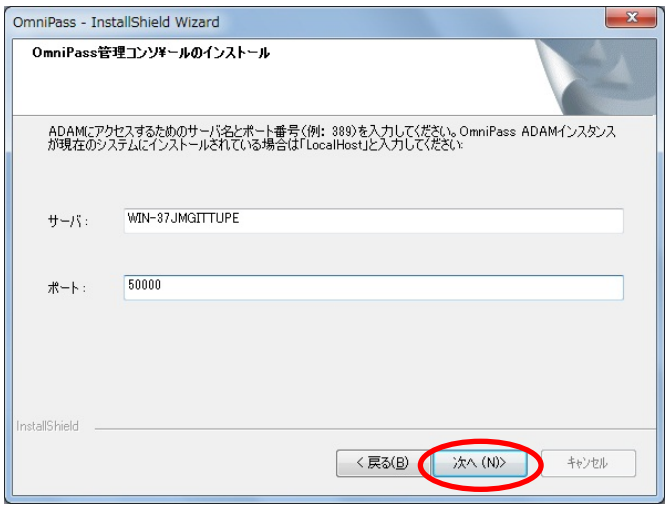
STEP 4-1

ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合、「はい」をクリックします。



STEP 4-2

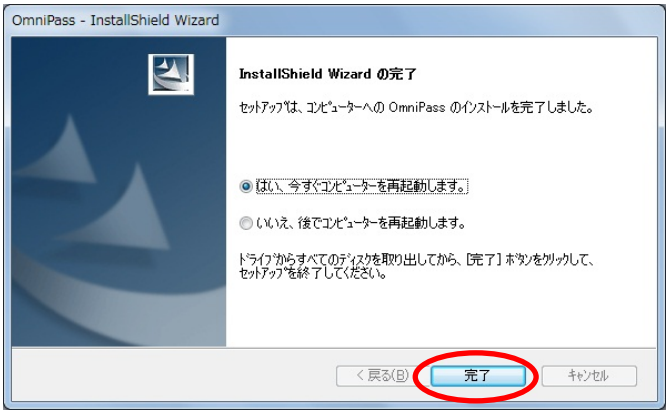
接続するサーバ名とポート番号(デフォルト：50000)を入力し「次へ」をクリックします。



STEP 5

OmniPassEE クライアントのインストール実行画面が表示されます。
ここでは、何も操作する必要はありません。

STEP 6



「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックします。

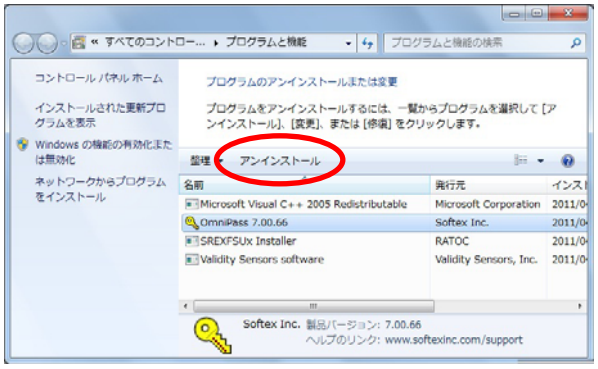
インストール後の再起動時には、サーバドメインのクライアントとして PC にログオンしてください。

OmniPassEE クライアント PC のサーバへの接続方法については、「2-4.OmniPassEE クライアント PC の接続」をご参照ください。

OmniPassEE クライアントアプリケーションのアンインストール

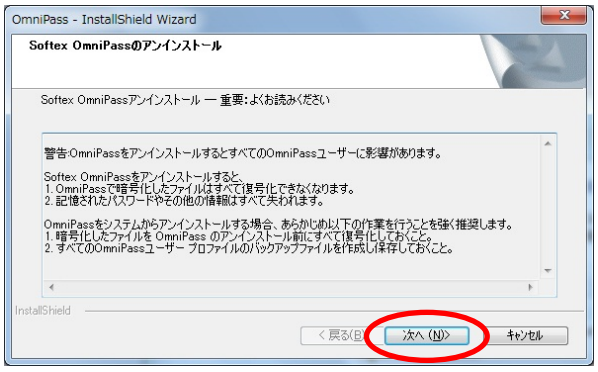
STEP 1

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を起動します。
「OmniPass」を選択し、「アンインストール」をクリックします。
または、「スタート」メニューから「プログラム」→「Softex」→「OmniPass のアンインストール」を選択します。（Windows 7 での実行例です。）



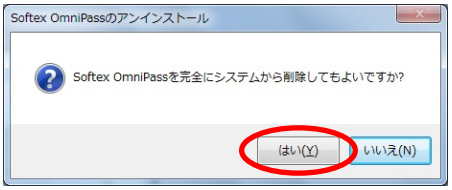
STEP 2

アンインストールに関する注意事項をご確認いただき「次へ」をクリックします。



STEP 3

アンインストールする場合は「はい」をクリックします。

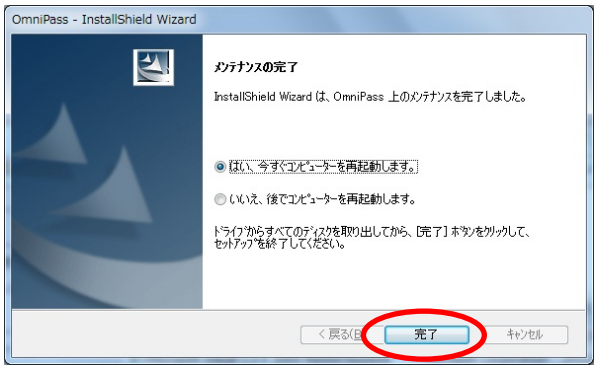


STEP 4

OmniPassEE クライアントのアンインストール実行画面が表示されます。
ここでは、何も操作する必要はありません。

STEP 5

以上でアンインストールは完了です。
「はい、今すぐにコンピュータを再起動します。」を選択して「完了」をクリックします。



2-4. OmniPassEE クライアント PC の接続

クライアント PC の OmniPassEE サーバへの接続には、次の 2 通りの方法があります。

- 「2-4-1. クライアント PC から接続」
- 「2-4-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録」

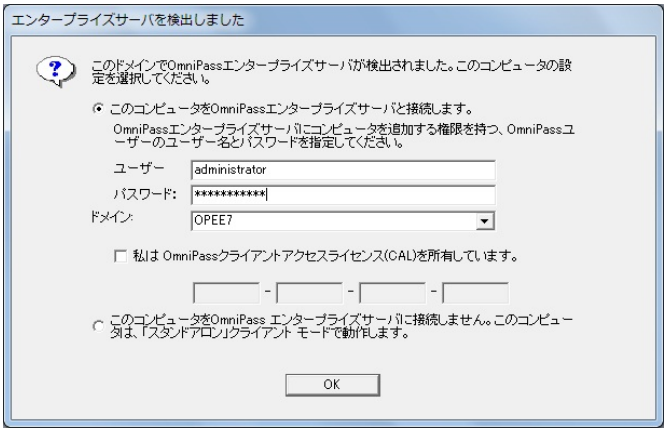
2-4-1. クライアント PC から接続

OmniPassEE クライアントをインストールした PC を、はじめて OmniPassEE サーバに接続すると、クライアント PC 上で［OmniPass エンタープライズサーバ］が検出されます。

クライアント PC を OmniPassEE サーバに接続して使用するために、

「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバと接続します。」

を選択します。



このとき、OmniPassEE サーバに接続するために OmniPassEE 管理者のユーザ名とパスワードが必要になります。

「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバに接続しません。このコンピュータは、「スタンドアロン」クライアントモードで動作します。」

を選択すると、OmniPassEE クライントは OmniPassEE サーバに接続せず、この PC 上でスタンドアロンモードとして動作します。

スタンドアロンモードの場合、OmniPassEE に接続するためにはクライアント PC の OmniPass を再インストールする必要がありますのでご注意ください。

2-4-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録

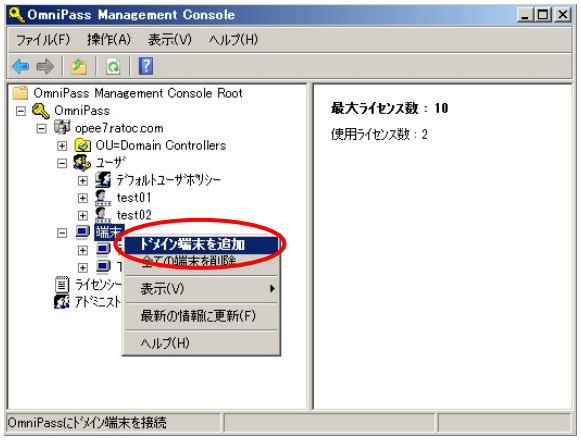
OmniPassEE クライアント PC の管理には、OmniPassEE サーバ PC にインストールされた OmniPass Management Console を使用します。

（「すべてのプログラム」-「Softex」-「OmniPass 管理コンソール」を起動します。）

OmniPassEE クライアント PC は OmniPass Management Console から登録することができます。

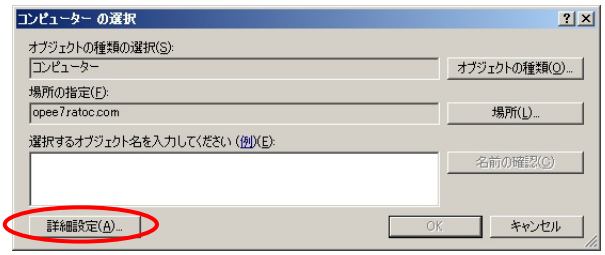
STEP 1

「端末」を右クリックし「ドメイン端末を追加」を選択します。



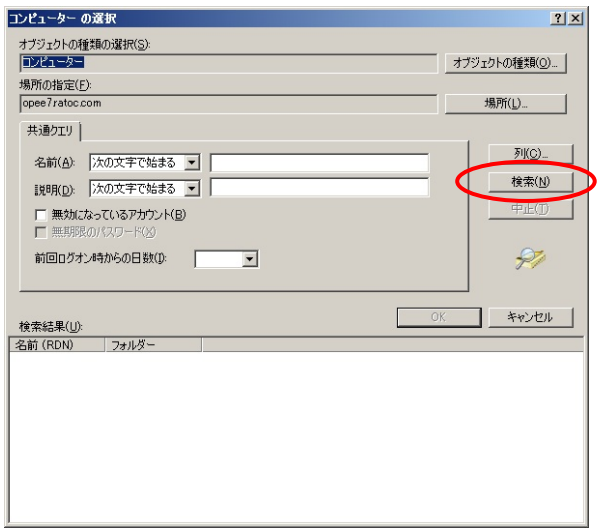
STEP 2

「コンピューターの選択」画面が表示されますので、「詳細設定」をクリックします。



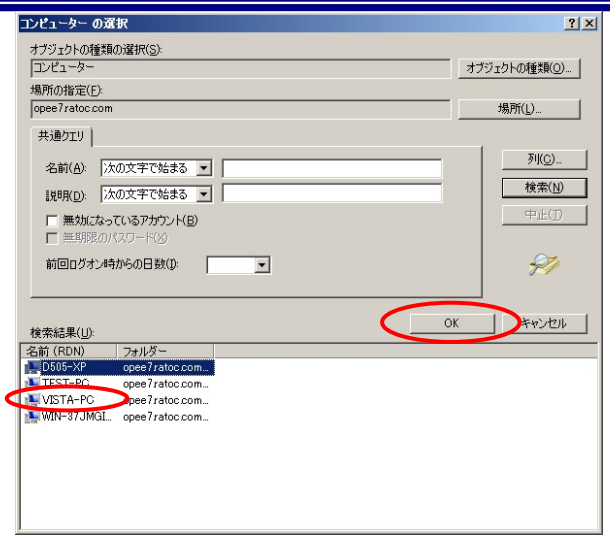
STEP 3

「検索」をクリックします。



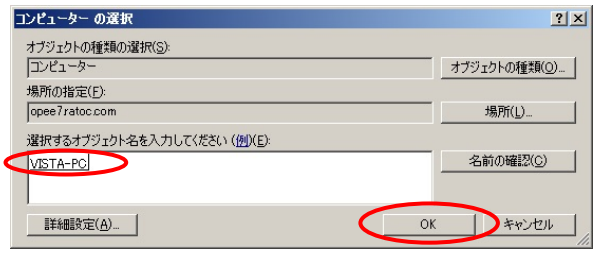
STEP 4

追加するクライアント PC を選択して「OK」をクリックします。



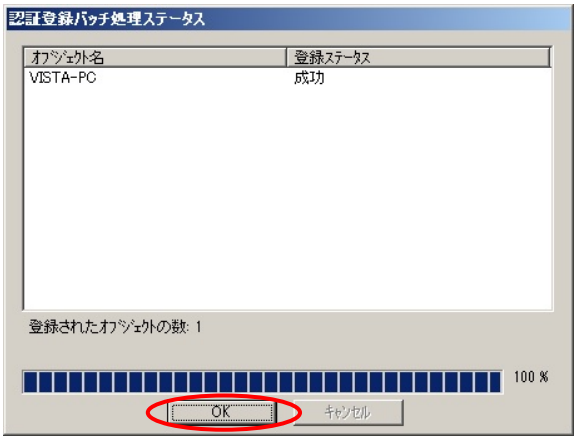
STEP 5

選択したクライアント PC が表示されていることを確認し「OK」をクリックします。



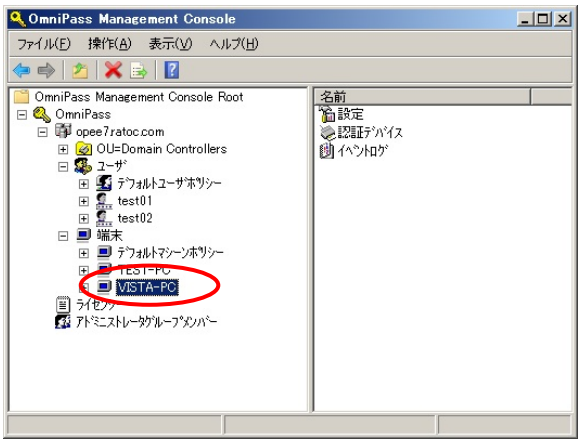
STEP 6

追加に成功したことを確認し「OK」をクリックします。



STEP 7

以上でクライアント PC の追加は完了です。



2-4-3. OmniPassEE クライアント PC の接続状態表示内容

OmniPassEE クライアントがインストールされ、正常に OmniPassEE サーバに接続されると、タスクトレイに「鍵とコンピュータのアイコン」が表示されます。

タスクトレイのアイコンは、OmniPassEE サーバと OmniPassEE クライアント PC の接続状態を表示しています。

接続

OmniPassEE サーバと正常に接続されています。

切断

OmniPassEE サーバと接続されていない状態です。
この状態で新規に登録された情報は、一時的に OmniPassEE クライアント PC のローカルディスクに保存されます。

再接続中

OmniPassEE サーバに再接続中です。OmniPassEE サーバのユーザ情報を更新しています。（アイコンの PC の画面が点灯します。）

スタンドアロン

OmniPassEE サーバと接続していません。OmniPassEE クライアントはスタンドアロンモードで実行され、全てのユーザ情報は PC のローカルディスクに保存されます。

⚠ OmniPassEE クライアント PC が OmniPassEE サーバに接続していない場合でも、ログインや暗号化ファイルの操作が行えるように、クライアントユーザが指紋登録を行った PC のローカルディスクにもクライアントユーザの指紋情報が保存されています。

⚠ OmniPass をスタンドアロンモードとしてインストールした場合、OmniPassEE に接続するためにはクライアント PC の OmniPassEE クライアントアプリケーションを再インストールする必要がありますのでご注意ください。

2-5. OmniPassEE クライアントユーザの登録

クライアントユーザの OmniPassEE サーバへの登録には、次の 2 通りの方法があります。

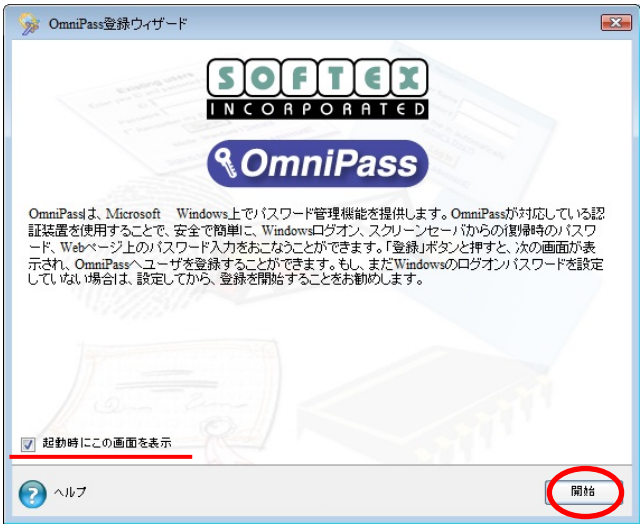
- 「2-5-1. OmniPassEE クライアント PC から登録」
- 「2-5-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録」

(OmniPassEE クライアント PC から登録する場合は、接続するサーバで作成されたユーザ名・パスワードが必要になります。登録を行う前に、必ずシステム管理者に正しい ID・パスワードを確認して下さい。)

2-5-1. OmniPassEE クライアント PC から登録

STEP 1

クライアントアプリケーションのインストール後、はじめて OmniPassEE クライアントユーザが OmniPassEE クライアント PC にログオンすると、[OmniPass 登録ウィザード] が起動しますので、
「開始」をクリックします。



初期設定では、ログオン時に毎回登録画面が表示されます。以降、登録画面を表示しない場合は「起動時にこの画面を表示」のチェックを外してください。

STEP 2

OmniPassEE クライアントユーザのユーザ名、ドメイン名、パスワードを入力し「次へ」をクリックします。

STEP 3

使用するデバイスを選択し「次へ」をクリックします。

(以降の登録内容はSREX-FSU2センサーでの例となります。)

STEP 4

登録する指を選択し「次へ」をクリックします。
(指先を囲んでいる四角い点線をクリックすると、使用する指が選択できます。
指の選択画面には「練習」ボタンがあり、クリックすると指紋のキャプチャを練習できます。問題なくキャプチャされるようでしたら、指紋の取得に進みます。

⚠ 指の乾燥状態、傷などにより、指紋が正しく認識されない場合があります。

STEP 5

画面の表示に従って指紋の取得を行います。

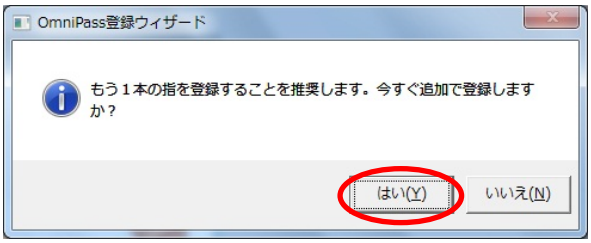
STEP 6

登録が正常に完了すると
「登録に成功しました。」のメッセージが表示されます。
「次へ」をクリックします。

⚠ 指紋が赤色で表示され、「登録に失敗しました。」のメッセージが出る場合は、もう一度確認をやり直す必要があります。

STEP 7

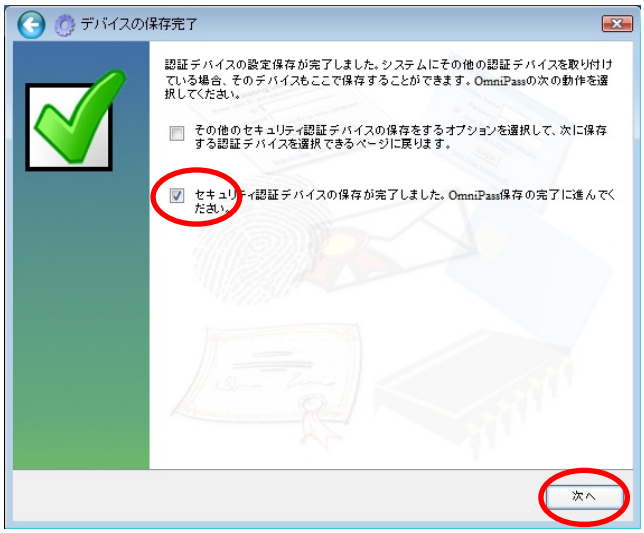
「もう 1 本の指を登録することを推奨します。今すぐ追加で登録しますか？」の画面が表示されます。
さらに別の指の指紋登録をする場合は「はい」をクリックします。
STEP 4 の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。



STEP 8

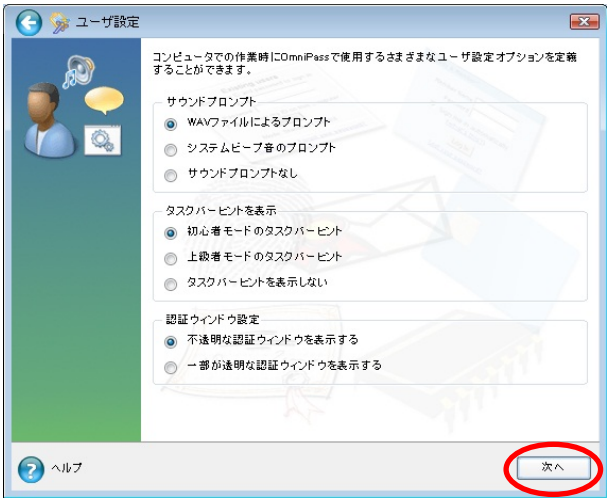
指紋の登録が完了した場合は「セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass 保存の完了に進んでください。」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。

「その他のセキュリティ認証デバイスの保存をするオプションを選択して、次に保存する認証デバイスを選択できるページに戻ります。」にチェックを入れ「次へ」をクリックした場合は、
STEP3 からの登録作業となり、指の追加登録および他の認証デバイスでの登録を行うことができます。



STEP 9

サウンド、タスクバー、認証ウィンドウの設定を行います。設定内容を確認し「次へ」をクリックします。



各種の OmniPassEE イベントをユーザに通知する方法を選択できます。

OmniPassEE クライアントの操作方法に慣れるまで、[サウンドプロンプト]を「WAV ファイルによるプロンプト」または「システムビープ音のプロンプト」に、[タスクバーヒントを表示]を「初心者モードタスクバーのヒント」に設定することをおすすめします。

[サウンドプロンプト]

「WAV ファイルによるプロンプト」: WAV ファイル音声による警告音を鳴らします。

「システムビープ音のプロンプト」: システムビープ音による警告音を鳴らします。

「サウンドプロンプトなし」: 警告音を OFF にします。

[タスクバーヒントを表示]

「初心者モードのタスクバーヒント」: 詳細な説明を表示します。

「上級者モードのタスクバーヒント」: 簡潔な説明を表示します。

「タスクバーヒントを表示しない」: タスクバーヒントを表示しません。

[認証ウィンドウ設定]

「不透明な認証ウィンドウを表示する」: 認証時に表示されるウィンドウが不透明ではありません。

「一部が透明な認証ウィンドウを表示する」: 認証時に表示されるウィンドウが不透明です。

STEP 10

以上で OmniPassEE クライアントユーザの登録は完了です。

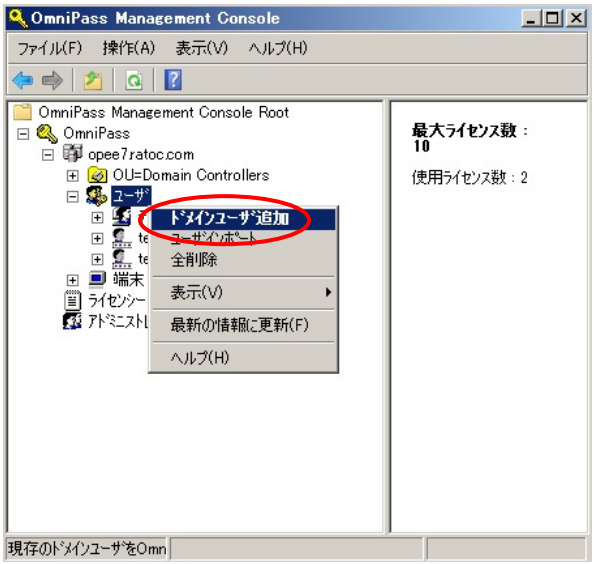
「完了」をクリックします。

2-5-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録

OmniPassEE クライアントユーザの管理には、OmniPassEE サーバ PC にインストールされた OmniPass Management Console を使用します。
(「すべてのプログラム」-「Softex」-「OmniPass 管理コンソール」を起動します。)
OmniPassEE クライアントユーザは OmniPassEE 管理コンソールから登録することができます。

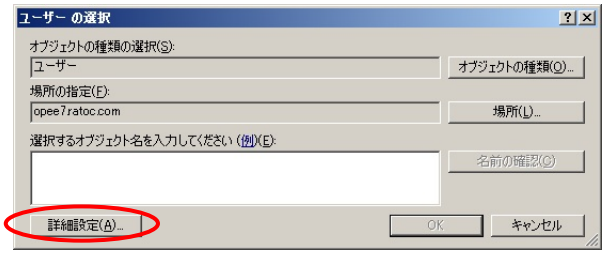
STEP 1

「ユーザ」を右クリックし「ドメインユーザを追加」を選択します。



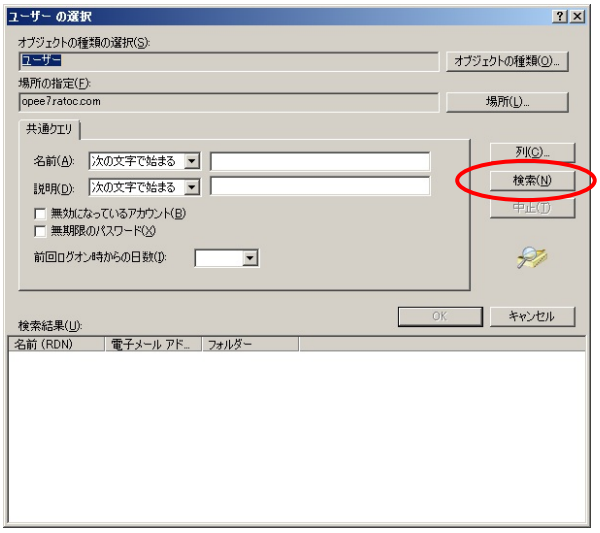
STEP 2

「ユーザーの選択」画面が表示されますので、「詳細設定」をクリックします。



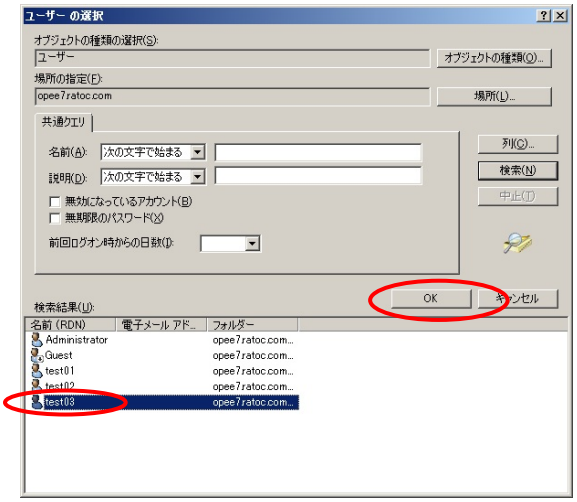
STEP 3

「検索」をクリックします。



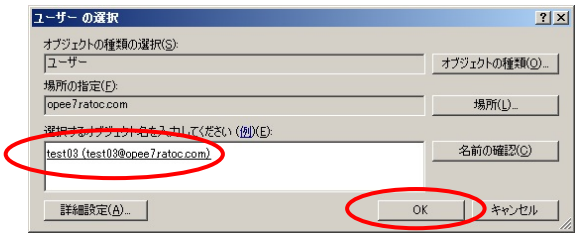
STEP 4

追加する OmniPassEE クライアントユーザを選択して「OK」をクリックします。



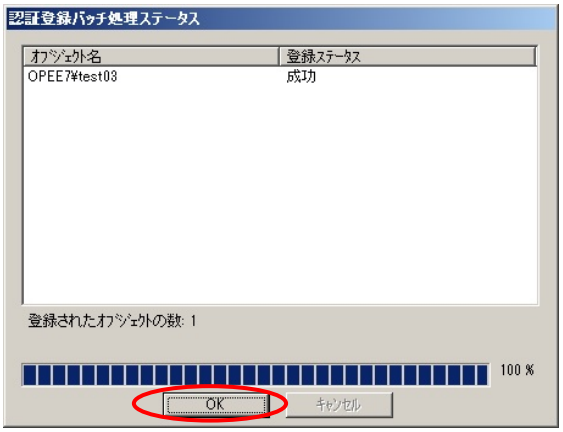
STEP 5

選択した OmniPassEE クライアントユーザが表示されていることを確認し「OK」をクリックします。



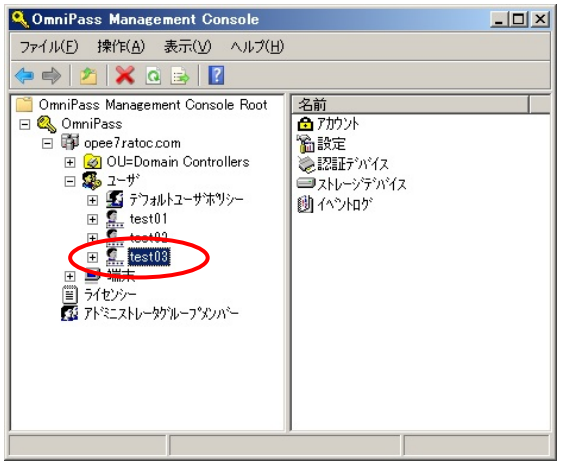
STEP 6

追加に成功したことを確認し「OK」をクリックします。



STEP 7

以上で OmniPassEE クライアントユーザの追加は完了です。



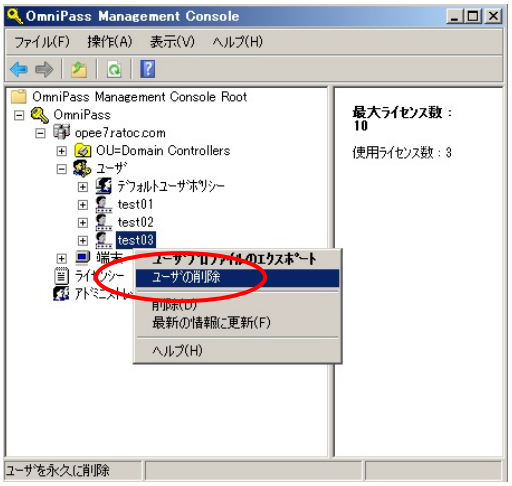
2-6. その他クライアントユーザ・PC の管理

OmniPass Management Console を使用して、OmniPassEE クライアントユーザ・PC の登録以外に、OmniPassEE クライアントユーザの削除・エクスポート・インポート、OmniPassEE クライアント PC の削除を行うことができます。

[OmniPassEE クライアントユーザの削除]

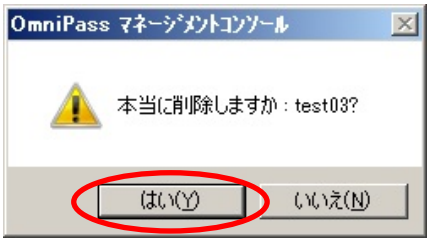
STEP 1

削除する OmniPassEE クライアントユーザ名を右クリックし「ユーザの削除」を選択します。



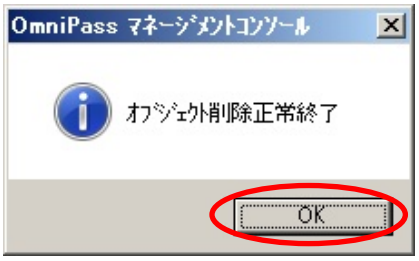
STEP 2

削除する場合は「はい」をクリックします。



STEP 3

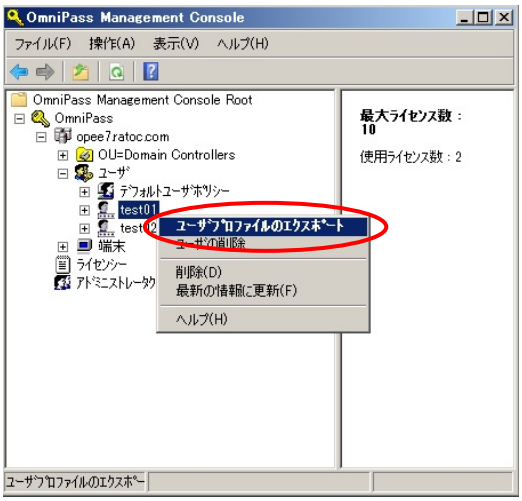
以上で OmniPassEE クライアントユーザの削除は完了です。



[OmniPassEE クライアントユーザのエクスポート]

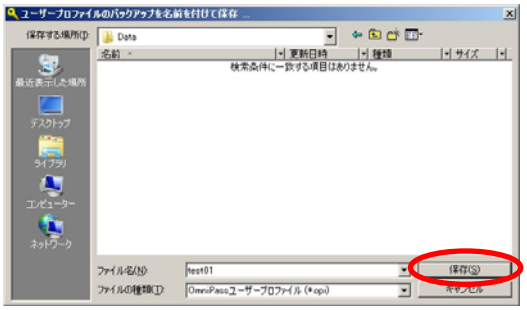
STEP 1

エクスポートする OmniPassEE クライアントユーザ名を右クリックし「ユーザプロファイルのエクスポート」を選択します。



STEP 2

エクスポートするプロファイルに名前をつけて保存します。



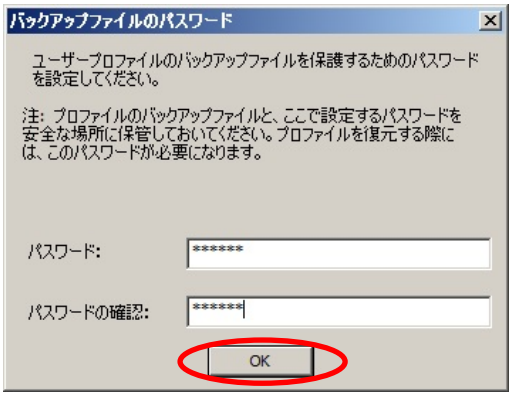
STEP 3

エクスポートするプロファイルを保護するためのパスワードを入力し「OK」をクリックします。

※ エクスポートしたプロファイルをインポートする際に必要となりますので忘れないでください。

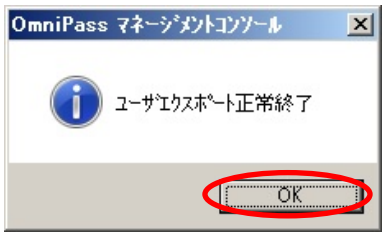
(このパスワードはWindowsおよびOmniPassEEでのユーザパスワードとは関係ありません。

パスワードには空白もしくは任意の英数字を入力してください。)



STEP 4

以上で OmniPassEE クライアントユーザのプロファイルのエクスポートは完了です。



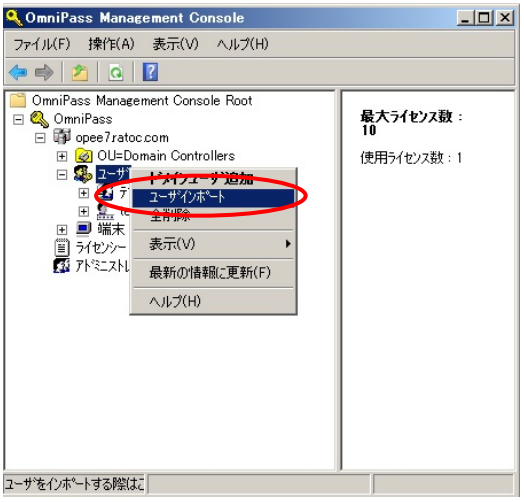
[OmniPassEE クライアントユーザのインポート]

※　OmniPass Management Console を使用してインポートされる OmniPassEE クライアントユーザは、サーバ PC 上へローカルログオンできる権限が必要です。

（権限が無い場合は、OmniPassEE クライアント PC 上でのみプロファイルのインポートが可能です。
OmniPassEE クライアント PC 上でのプロファイルのインポート方法につきましては、各デバイスに付属されている CD-ROM に収録されているユーザーズマニュアルをご参照ください。）

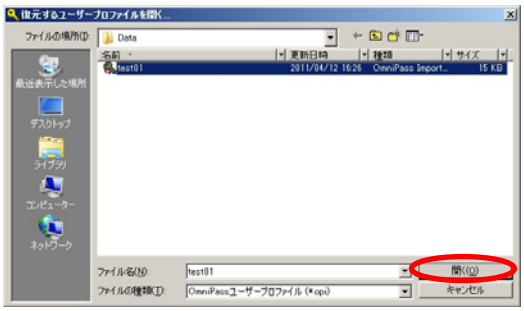
STEP 1

「ユーザ」を右クリックし「ユーザインポート」を選択します。



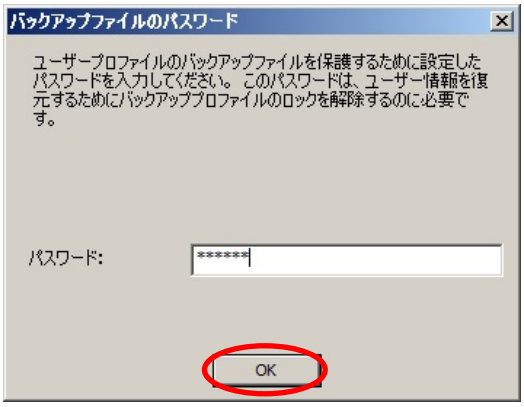
STEP 2

インポートするプロファイルを選択し「開く」をクリックします。
ファイルの拡張子は”.opi”です。



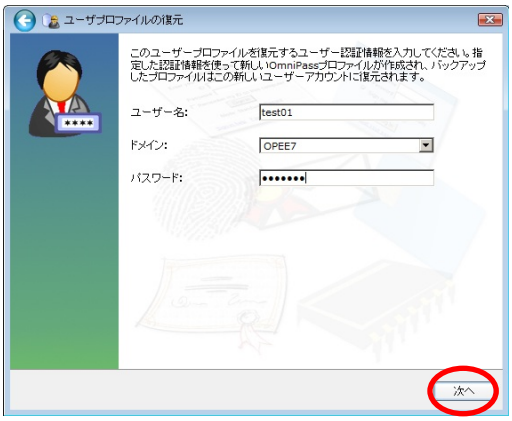
STEP 3

プロファイルをエクスポートする際に設定したパスワード(前頁参照)を入力し「OK」をクリックします。



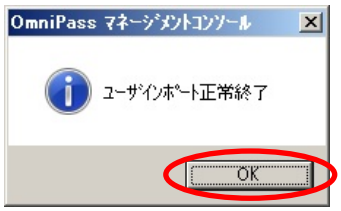
STEP 4

インポートする OmniPassEE クライアントユーザのユーザ名、ドメイン、Windows パスワードを入力して「次へ」をクリックします。



STEP 5

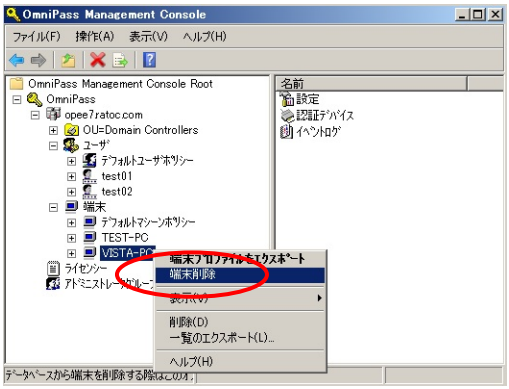
以上で OmniPassEE クライアントユーザのインポートは完了です。



[OmniPassEE クライアント PC の削除]

STEP 1

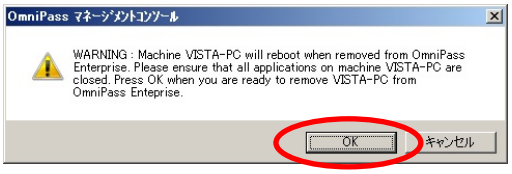
削除する OmniPassEE クライアント PC 名を右クリックし「端末削除」を選択します。



STEP 2

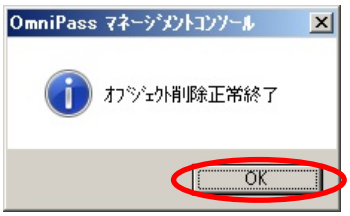
削除する場合は「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、削除する OmniPassEE クライアント PC が再起動します。
保存していないファイル等がある場合はあらかじめ保存しておいてください。



STEP 3

以上で OmniPassEE クライアン PC の削除は完了です。



3-1. OmniPassEE クライアントユーザの管理 <サーバ側>

OmniPass Management Console(サーバ側管理コンソール)から各 OmniPassEE クライアントユーザの各設定を行うことができます。

「スタートメニュー」から「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 管理コンソール」を実行すると、OmniPass Management Console が起動します。

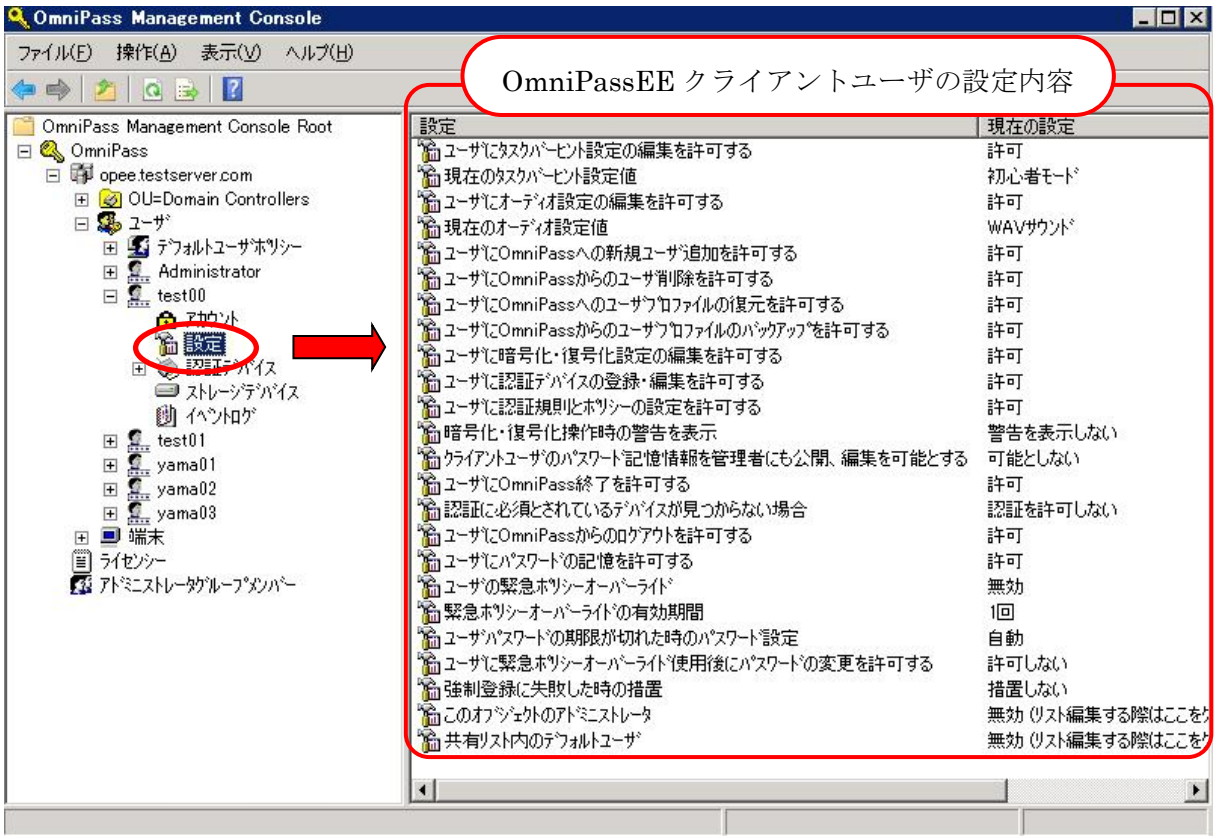


Fig.3-1 OmniPass Management Console

「OmniPass」→「ドメイン名」→「ユーザ」→ 「クライアントユーザ名」の「設定」キーをクリックします。
次頁以降にて、各項目の説明と設定方法を解説します。

[各設定項目の変更方法]

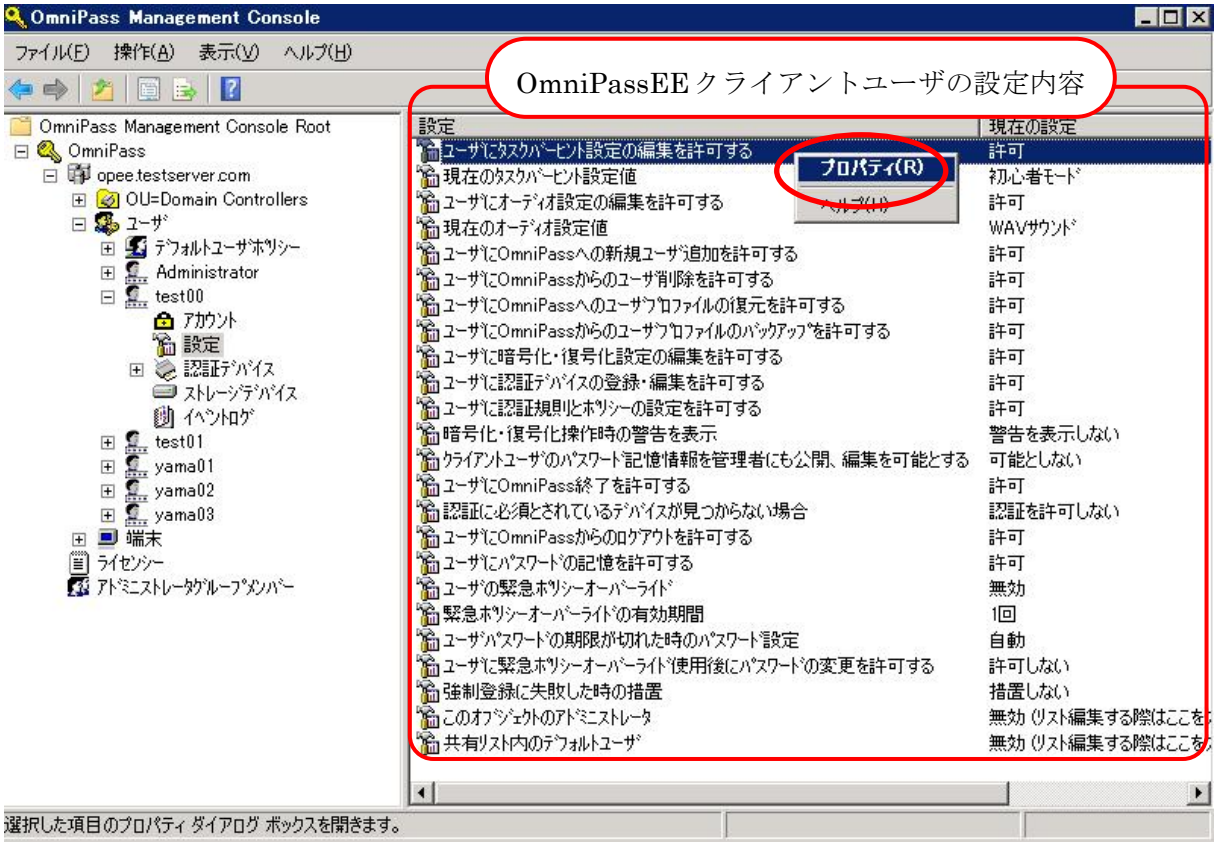


Fig.3-2 OmniPass Management Console プロパティを表示

1. ウィンドウ右側から設定を変更したい項目を選択し、右クリック→プロパティを選択、またはダブルクリックしてその項目のプロパティを表示させます。

2. Fig.3-3 のようなプロパティが表示されますので「設定オプション」のプルダウンメニューから適用する項目を選択し「OK」をクリックします。

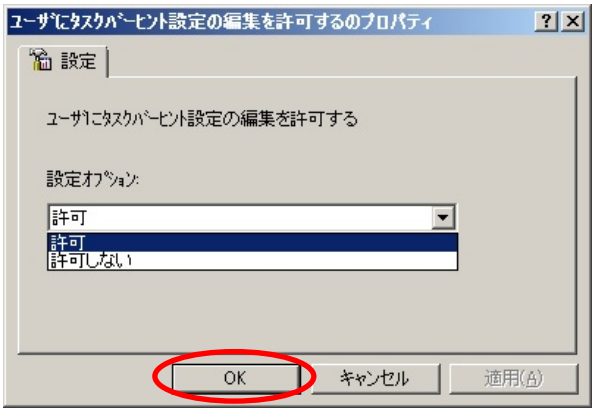


Fig.3-3 項目のプロパティ

[OmniPassEE クライアントユーザ側での設定内容の確認]

サーバ側管理コンソールにて各 OmniPassEE クライアントユーザに設定された内容は、クライアント側コンソールで確認することができます。

OmniPassEE クライアント PC のタスクトレイアイコンをダブルクリック、もしくは右クリックし「開く」をクリックするとクライアント側コンソールが起動します。

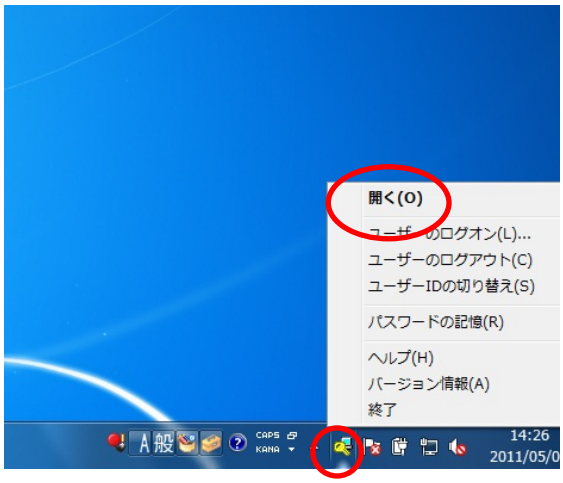


Fig. 3-4 クライアント側コンソール起動方法

Fig. 3-5 クライアント側コンソール

ユーザにタスクバーヒント設定の編集を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによる、タスクバーヒント設定の変更を禁止または許可します。

(※ 「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」の各内容については、次ページの説明をご参照ください)

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザはタスクバーヒントの設定を行うことができません。

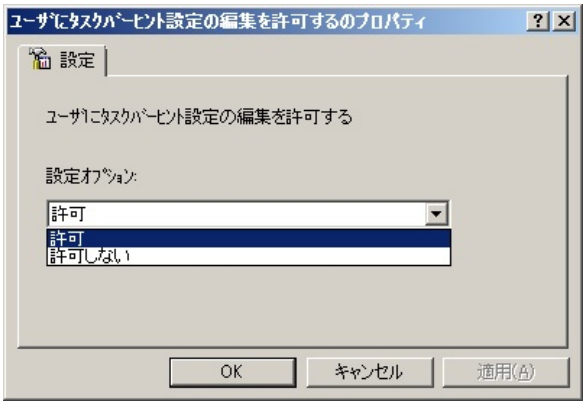


Fig. 3-6 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-7 クライアント側コンソール

現在のタスクバーヒント設定値

デフォルト設定：「初心者モード」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザのタスクバーヒント設定を変更します。
「初心者モード（初心者モードのタスクバーヒント）」 -- 詳細な説明を表示します
「上級者モード（上級者モードのタスクバーヒント）」 -- 簡潔な説明を表示します
「ヒントを表示しない（タスクバーヒントを表示しない）」-- タスクバーヒントを表示しません。

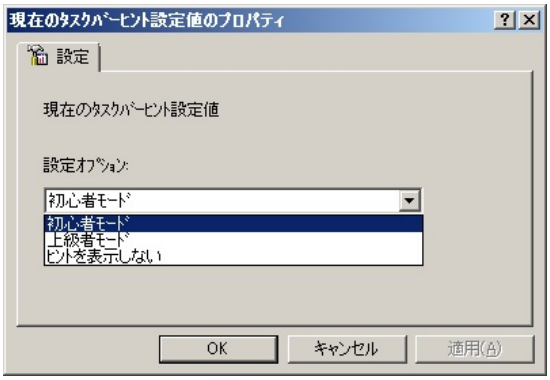


Fig.3-8 サーバ側管理コンソール

Fig.3-9 クライアント側コンソール

OmniPassEE クライアントユーザ側でタスクバーヒントの設定値を変更させるには、前頁の「ユーザにタスクバーヒント設定の編集を許可する」を「許可」に設定する必要があります。

ユーザにオーディオ設定の編集を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザにオーディオ設定の変更を禁止または許可します。

(※ 「ユーザオーディオ設定の変更」の各内容については、次ページの説明をご参照ください)

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザオーディオ設定の変更」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザオーディオ設定の変更」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザはユーザオーディ設定の変更を行うことができません。

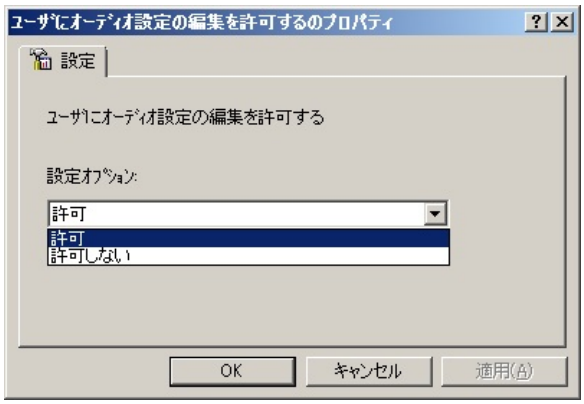


Fig. 3-10 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-11 クライアント側コンソール

現在のオーディオ設定値

デフォルト設定：「WAV サウンド」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザのオーディオ設定を変更します。

「WAV サウンド（WAV ファイルによるサウンドプロンプト）」-- WAV ファイル音声による警告音を鳴らします。

「ビープ音（ビーププロンプトのみ）」 -- システムビープ音による警告音を鳴らします。

「サウンドなし（サウンドプロンプトなし）」 -- 警告音を OFF にします。

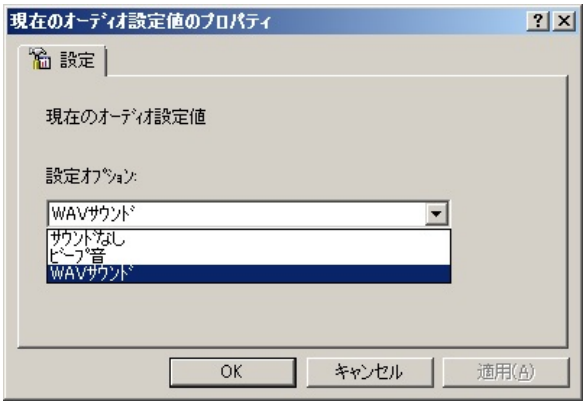


Fig. 3-12 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-13 クライアント側コンソール

OmniPassEE クライアントユーザ側でユーザオーディオ設定の変更をさせるには、前頁の「ユーザにオーディオ設定の編集を許可する」を「許可」に設定する必要があります。

ユーザに OmniPass への新規ユーザ追加を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによる新規ユーザの追加を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「新規ユーザを OmniPass に追加」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「新規ユーザを OmniPass に追加」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザは新規ユーザを追加することができません。

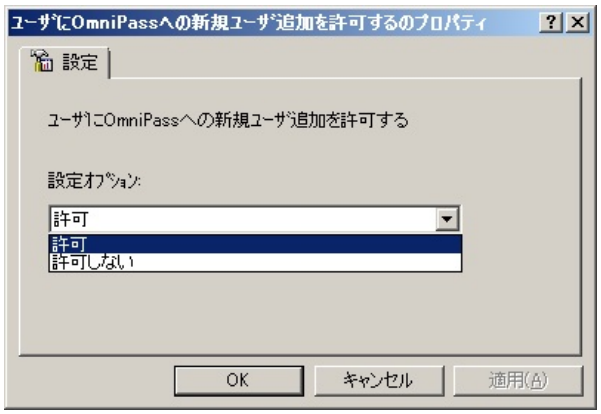


Fig. 3-14 サーバ側管理コンソール

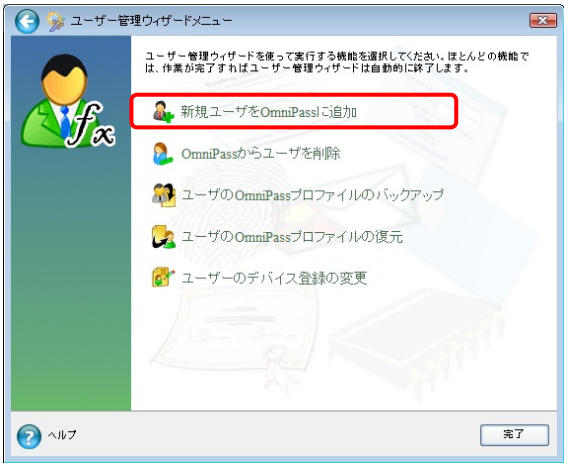


Fig. 3-15 クライアント側コンソール。

ユーザに OmniPass からのユーザ削除を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによるユーザの削除を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「OmniPass からユーザを削除」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「OmniPass からユーザを削除」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザはユーザを削除することができません。

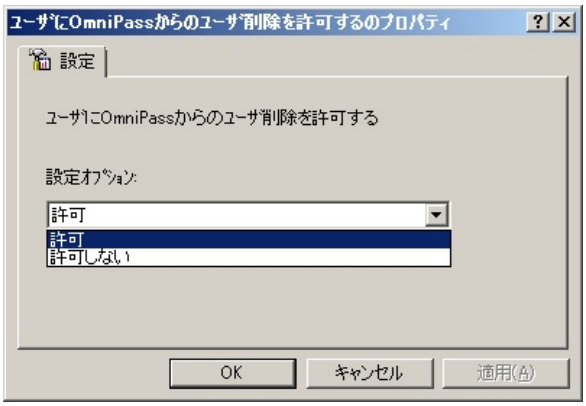


Fig. 3-16 サーバ側管理コンソール

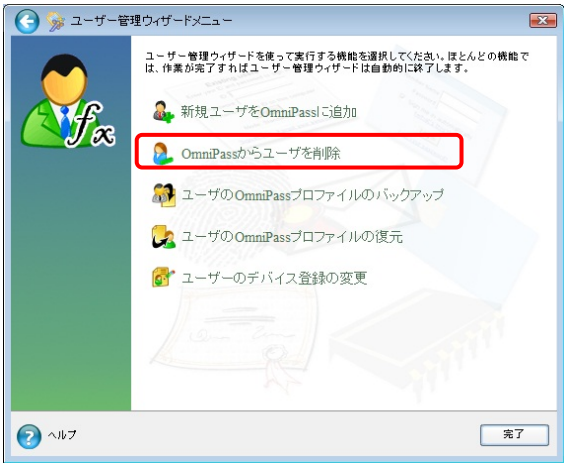


Fig. 3-17 クライアント側コンソール

ユーザに OmniPass へのユーザプロファイルの復元を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによるユーザプロファイルの復元を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザはユーザプロファイルの復元を行うことができません。

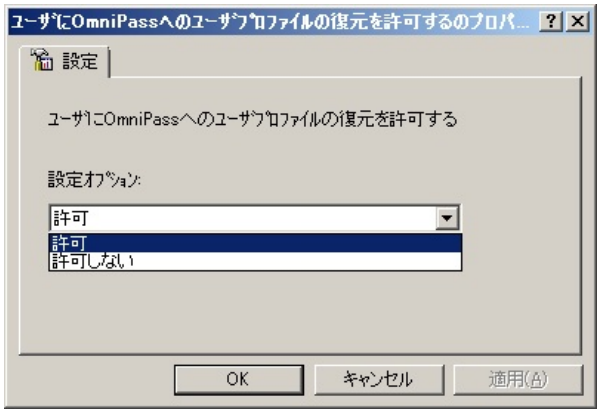


Fig. 3-18 サーバ側管理コンソール

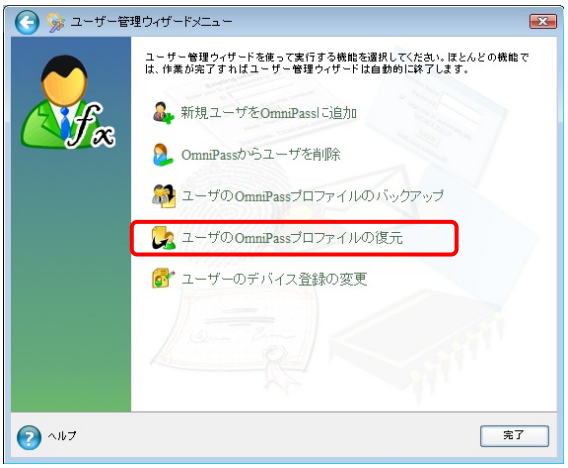


Fig. 3-19 クライアント側コンソール

ユーザに OmniPass からのユーザプロファイルのバックアップを許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによるユーザプロファイルのバックアップを禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザはユーザプロファイルのバックアップを行うことができません。

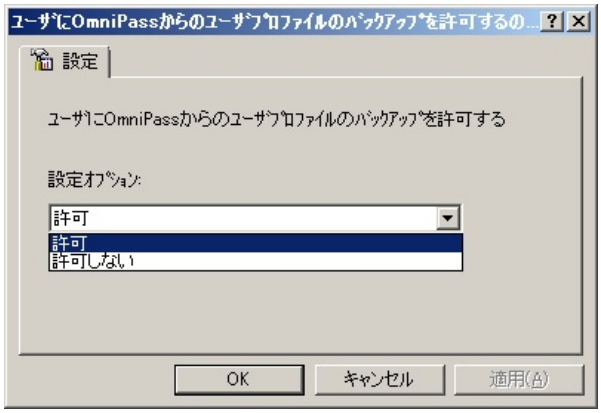


Fig. 3-20 サーバ側管理コンソール

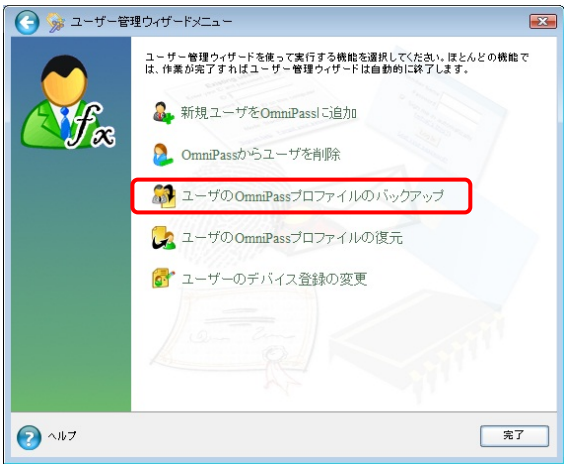


Fig. 3-21 クライアント側コンソール

ユーザに暗号化・復号化設定の編集を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによるファイル暗号化時の設定変更を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライント側コンソールに「ファイル暗号化設定の変更」が表示されます。

「許可しない」-- クライント側コンソールに「ファイル暗号化設定の変更」が表示されず、OmniPass クライアントユーザは暗号化時の設定を変更することができません。

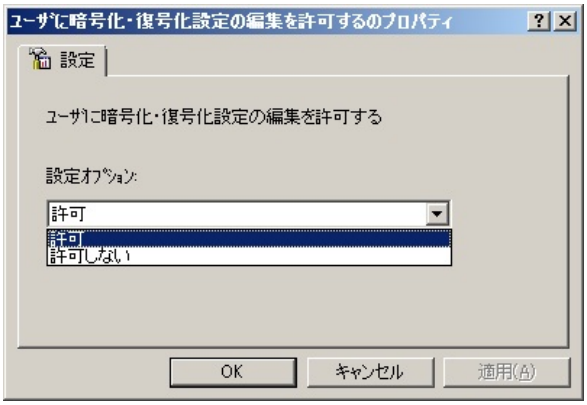


Fig. 3-22 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-23 クライアント側コンソール

ユーザに認証デバイスの登録・編集を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによる認証デバイスの登録を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザーのデバイス登録の変更」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザーのデバイス登録の変更」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザは認証デバイスを登録することができません。

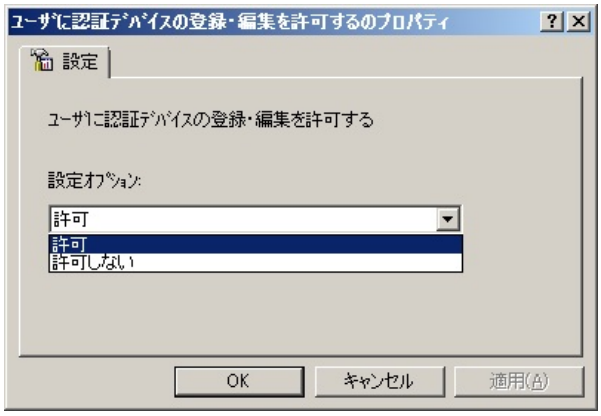


Fig.3-24 サーバ側管理コンソール

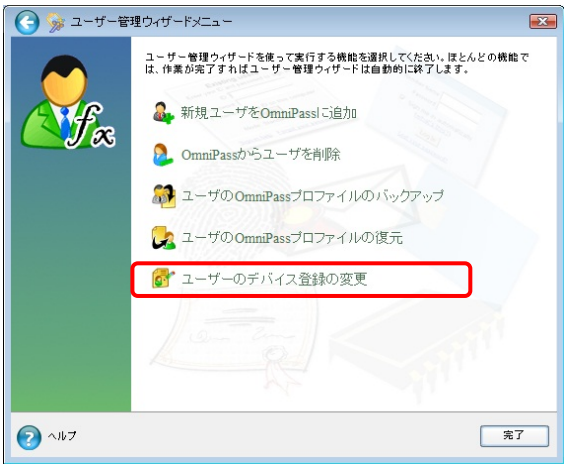


Fig.3-25 クライアント側コンソール

ユーザに認証規則とポリシーの設定を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによる認証規則の設定変更を禁止または許可します。

「許可」　　-- クライアント側コンソールに「ユーザ認証規則とポリシーの設定」が表示されます。

「許可しない」-- クライアント側コンソールに「ユーザ認証規則とポリシーの設定」が表示されず、OmniPassEE クライアントユーザは認証規則の設定を行うことができません。

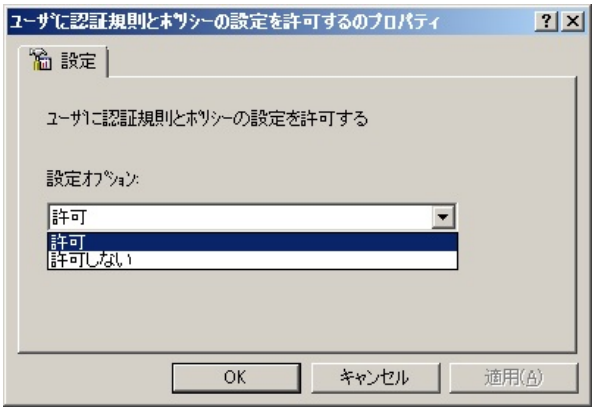


Fig. 3-26 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-27 クライアント側コンソール

暗号化・復号化操作時の警告を表示

デフォルト設定：「警告を表示しない」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザがファイルやフォルダを暗号化する時の、警告の表示・非表示を決定します。

「警告を表示」　　-- 暗号化時に警告が表示されます。

「警告を表示しない」-- 暗号化時に警告は表示されません。

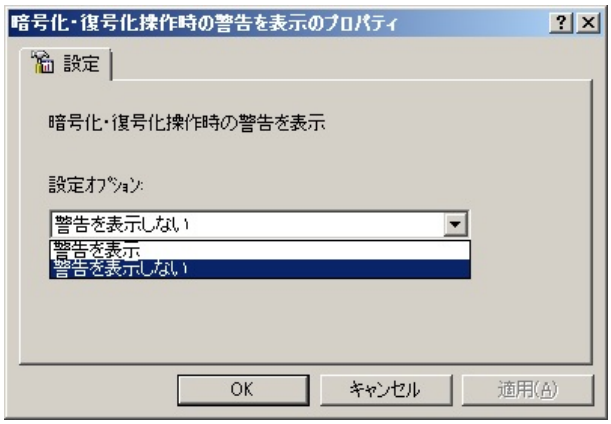


Fig. 3-28 サーバ側管理コンソール

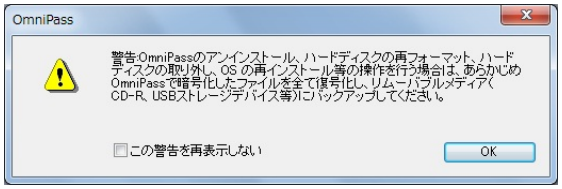


Fig. 3-29 クライアント側　警告表示

クライアントユーザのパスワード記憶情報を管理者にも公開、編集を可能とする

デフォルト設定：「可能としない」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが OmniPass を使用して登録する Web・アプリのアカウント情報を、OmniPassEE 管理者に閲覧・編集可能とするか禁止するかを設定します。

この設定を行った後に記憶された登録情報について有効になります。
設定以前に登録されたページについては適用されません。

「可能とする」　-- OmniPassEE 管理者はユーザが記憶させたページの内容を閲覧・編集・コピーすることができます。(公開)

「可能としない」-- OmniPassEE 管理者はユーザが記憶させたページの内容を閲覧・編集・コピーすることができません。(非公開)

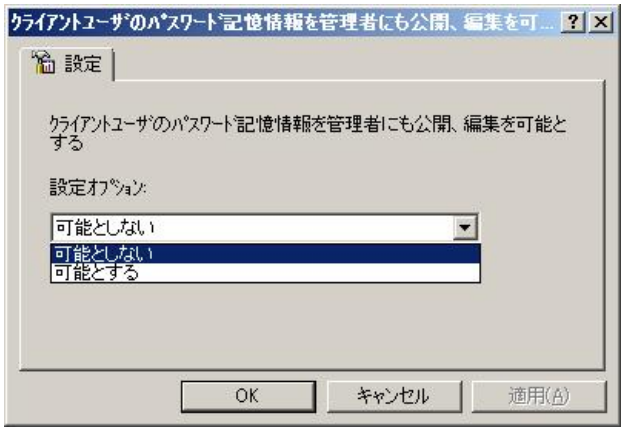


Fig. 3-30 サーバ側管理コンソール

※　アカウント情報管理の詳細につきましては、「4-2. OmniPassEE クライアントユーザのアカウント情報管理について」をご参照ください。

ユーザに OmniPass 終了を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザによる OmniPass クライアントの終了を許可または禁止します。

「許可」　　-- OmniPass を終了することができます。

「許可しない」-- 「終了」が表示されなくなり、OmniPass を終了することができません。

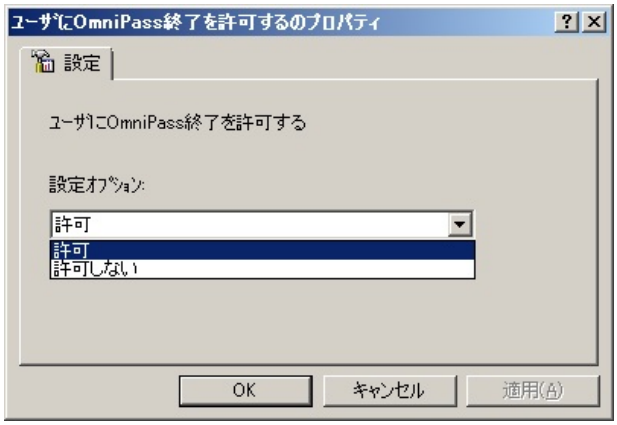


Fig. 3-31 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-32 クライアント側コンソール

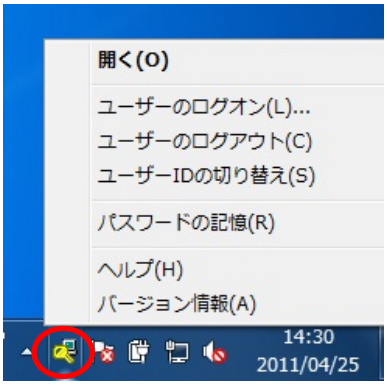


Fig. 3-33 クライアント側コンソール

認証に必須とされているデバイスが見つからない場合

デフォルト設定：「認証を許可しない」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが認証時に必須とされているデバイスが接続されていない場合に、認証動作を禁止するかマスターパスワードにて認証を行なうかを決定します。

「認証を許可しない」　　-- 認証に必須とされているデバイスが見つからない場合はエラーとなり認証動作を行えません。

「マスターパスワードで認証する」　-- 認証に必須とされているデバイスが見つからない場合はマスターパスワードにて認証を行えます。

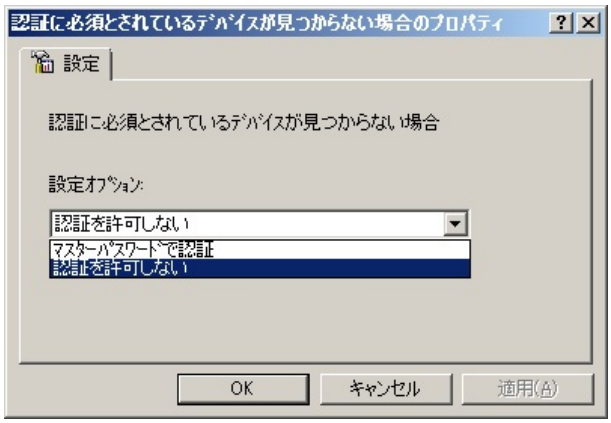


Fig.3-34 サーバ側管理コンソール

Fig.3-35 クライアント側コンソール

また、デバイスが見つからない・センサが故障した等の理由で認証できない場合は、後述の「ユーザの緊急ポリシーオーバーライド」設定で認証することも可能です。

(緊急ポリシーオーバーライドの設定方法につきましては、指紋センサ添付のユーザーズマニュアルをご参照ください。)

ユーザに OmniPass からのログアウトを許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPass にログオンした OmniPassEE クライアントユーザが、OmniPass からのログアウトを許可するかどうかを設定します。

「許可」　　-- OmniPass からログアウトすることができます。

「許可しない」--「ユーザーのログアウト」の表示がグレー表示となり、クライアントユーザは OmniPass からログアウトすることができません。

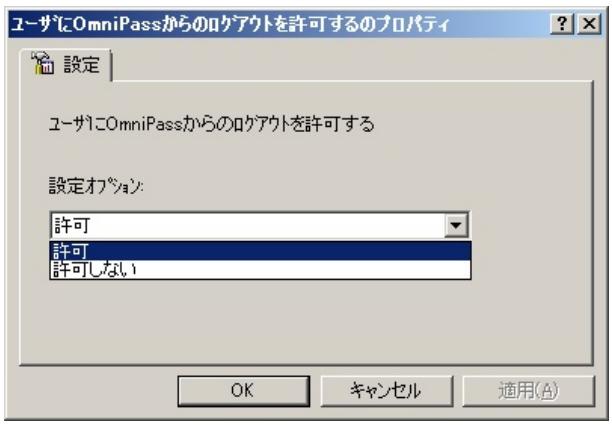


Fig. 3-36 サーバ側管理コンソール

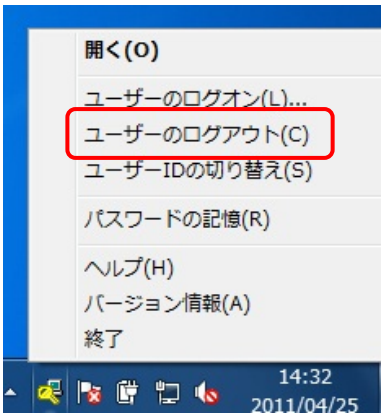


Fig. 3-37 クライアント側コンソール

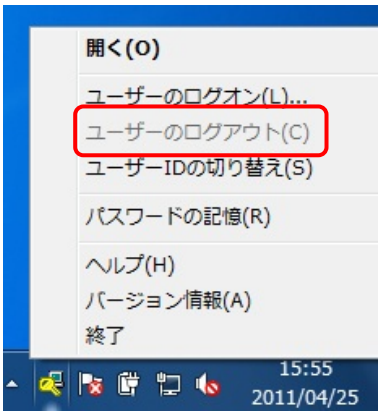


Fig. 3-38 クライアント側コンソール

ユーザにパスワードの記憶を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが Web やアプリケーションの ID/パスワードを記憶することを許可または禁止します。

「許可」　　-- Web やアプリケーションのログイン情報を記憶することができます。

「許可しない」-- 「パスワードの記憶」が非表示となり、Web やアプリケーションのログイン情報を記憶させることができません。

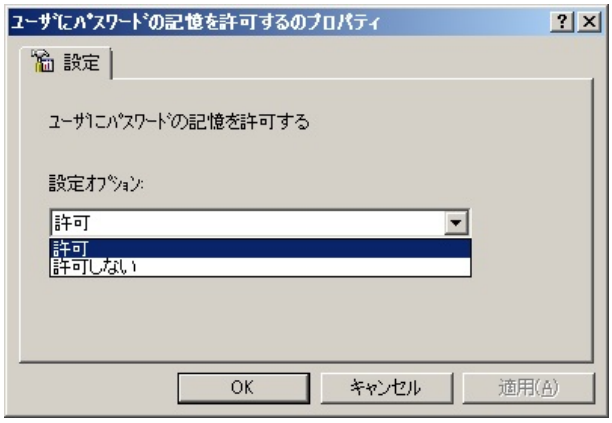


Fig. 3-39 サーバ側管理コンソール

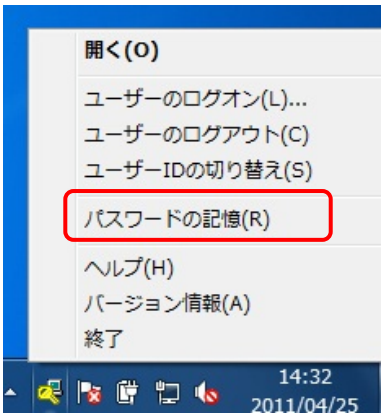


Fig. 3-40 クライアント側コンソール

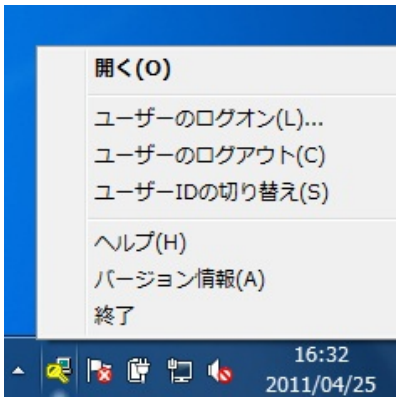


Fig. 3-41 クライアント側コンソール

ユーザの緊急ポリシーオーバーライド

デフォルト設定：「無効」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが認証できない場合(認証時に必須とされているデバイスが接続されていない場合やマスターパスワードを忘れた場合など)、「ログインできません」をクリックすることにより、OmniPassEE サーバ側が発行する認証コードまたは OmniPassEE クライアントユーザ側であらかじめ設定した認証用の質問と回答で認証することができます。

「無効」　　-- この機能を使用することができません。

「認証コード発行」-- OmniPassEE サーバ側で発行された認証コードで認証することができます。

「ユーザ定義」　　-- OmniPassEE クライアントユーザ側で設定した認証用の質問と回答で認証することができます。

(緊急ポリシーオーバーライドの設定方法につきましては、指紋センサ添付のユーザーズマニュアルをご参照ください。)

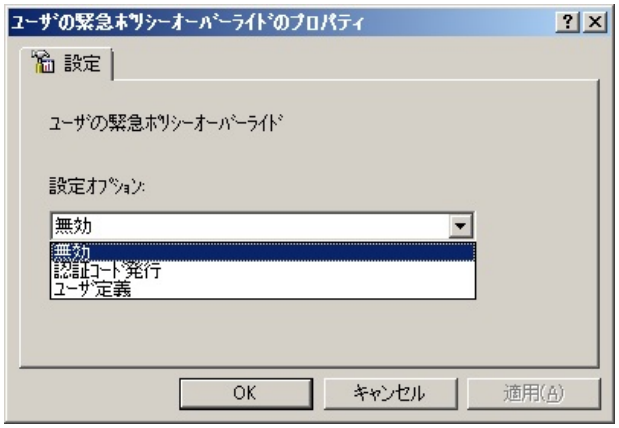


Fig.3-42 サーバ側管理コンソール

Fig.3-43 クライアント側コンソール

※　「認証コード発行」設定の詳細につきましては、「4-3. OmniPassEE クライアントユーザの緊急ポリシーオーバーライド設定について」をご参照ください。

緊急ポリシーオーバーライドの有効期間

デフォルト設定：「1 回」

この設定では、前項の「緊急ポリシーオーバーライド」機能を使用して認証できる期間を設定します。

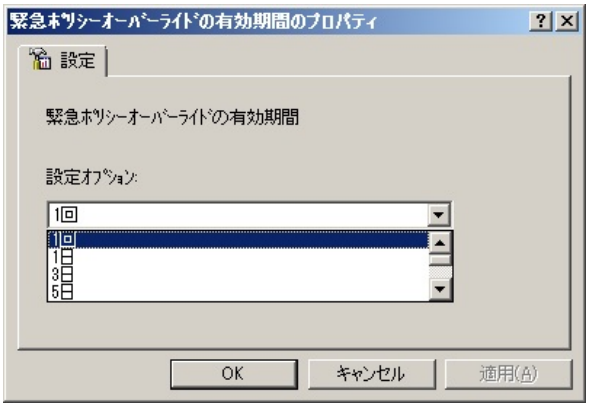


Fig. 3-44 サーバ側管理コンソール

ユーザパスワードの期限が切れた時のパスワード設定

デフォルト設定：「手動」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザの Windows ログオンパスワードの有効期間が切れた時、OmniPassEE クライアントユーザのパスワード設定方法を決定します。

「手動」-- クライアントユーザ側で新しい Windows ログオンパスワードを設定する画面が出力されます。

「自動」-- サーバ側の「パスワードのポリシー」に従って 64 文字のパスワードが自動生成されます。

(※ パスワードのポリシーは Windows スタートメニューより「管理ツール」→「ローカルセキュリティポリシー」→を開き「アカウントポリシー」→「パスワードのポリシー」で確認することができます。[Windows Server2008R2 の場合])

生成されたパスワードを確認することができませんので、OmniPassEE サーバ管理者は OmniPassEE クライアントユーザの Windows ログオンパスワードを再設定してください。

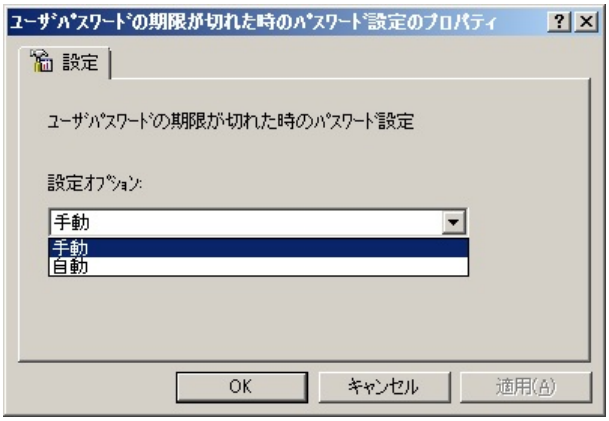


Fig. 3-45 サーバ側管理コンソール

ユーザに緊急ポリシーオーバーライド使用後にパスワードの変更を許可する

デフォルト設定：「許可しない」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが「緊急ポリシーオーバーライド」の機能を使用後、Windows ログオンパスワードの変更を許可するか禁止するかを設定します。

「許可する」　-- OmniPassEE クライアントユーザ側で Windows ログオンパスワードを変更する画面が出力されます。

「許可しない」 -- Windows ログオンパスワードは変更されません。

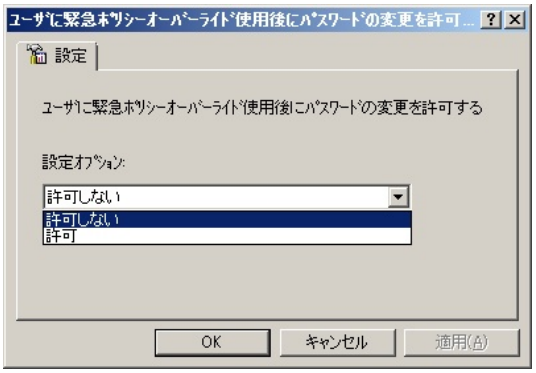


Fig. 3-46 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-47 クライアント側コンソール

強制登録に失敗した時の措置

デフォルト設定：「措置しない」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが「デバイスの強制登録」をキャンセル、または失敗した際の対応措置を設定します。

※「デバイスの強制登録」については、後述の **3-3. 認証デバイスの設定**をご参照ください。

「措置しない」　　-- OmniPassEE クライアント PC に対しては何も行いません。

「ログオフ」　　-- OmniPassEE クライアント PC をログオフします。

「シャットダウン」-- OmniPassEE クライアント PC をシャットダウンします。

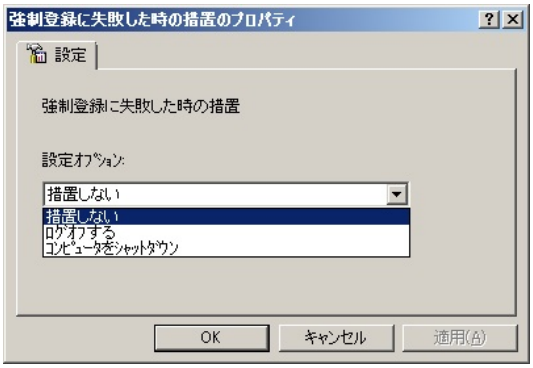


Fig. 3-48 サーバ側管理コンソール

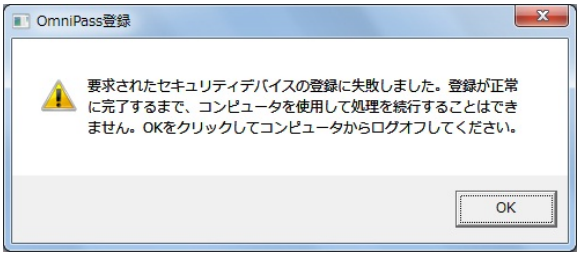


Fig. 3-49 クライアント側コンソール
［ログオフ］

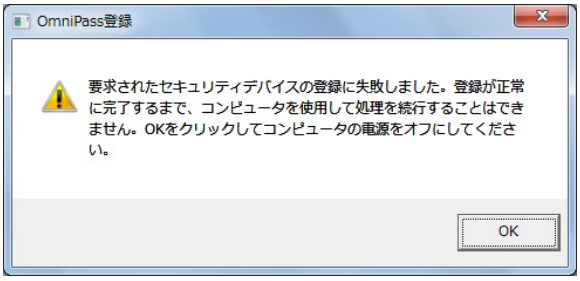


Fig. 3-50 クライアント側コンソール
［シャットダウン］

このオブジェクトのアドミニストレータ

デフォルト設定：「無効」

この設定では、選択されている OmniPassEE クライアントユーザの管理者として、任意の OmniPassEE クライアントユーザを追加することができます。
「選択」をクリックし追加する OmniPassEE クライアントユーザを指定します。
（「2-5-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様に OmniPassEE クライアントユーザを選択します。）
リストにユーザを追加することで設定値は有効となります。
リストからユーザをすべて削除すると、設定値は無効になります。

右図は「test01」ユーザの設定で、「test03」を追加した例です。
「test03」はサーバ PC へローカルログオン後にサーバ側管理コンソールにて「test01」の各設定を行うことができます。

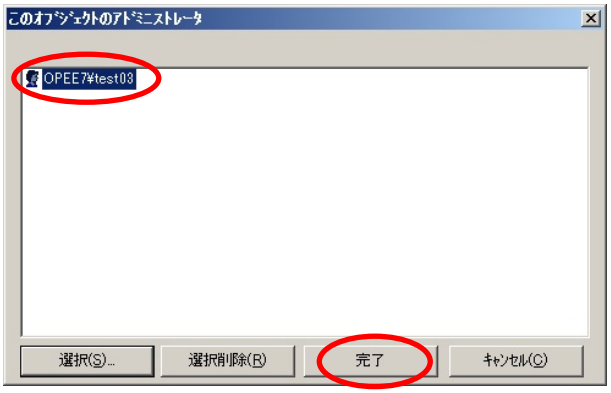


Fig. 3-51 サーバ側管理コンソール

この設定で追加されたユーザ以外は、サーバ側管理コンソールでこのユーザを管理することができなくなります。設定を解除するためには、[このオブジェクトのアドミニストレータ]リストに指定されたユーザとしてサーバ PC にローカルログオンし、リストからユーザ名を削除する必要があります。
サーバ PC にローカルログオンする際、ユーザにはドメイン管理者の権限を与える必要があります。

共有リスト内のデフォルトユーザ

デフォルト設定：「無効」

この設定では、リストに OmniPassEE クライアントユーザを追加し、この OmniPassEE クライアントユーザがファイルやフォルダを暗号化すると自動的に共有ユーザとして設定されます。
「選択」をクリックし追加する OmniPassEE クライアントユーザを指定します。
（「2-5-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様に OmniPassEE クライアントユーザを選択します。）
リスト内にユーザを追加すると、この設定は「有効」となります。
リスト内にユーザが存在しない状態では、この設定は「無効」となります。
⚠ この設定を行った後に暗号化されたファイルやフォルダについて有効になります。
設定以前に暗号化されたファイルやフォルダについては適用されません。

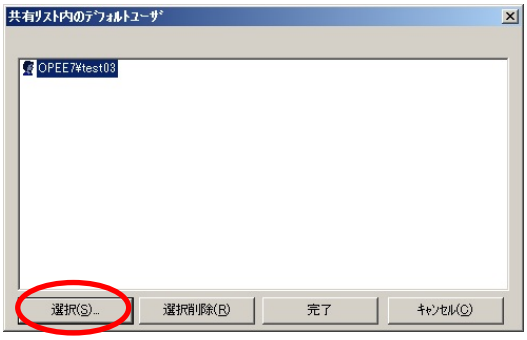


Fig. 3-52 サーバ側管理コンソール

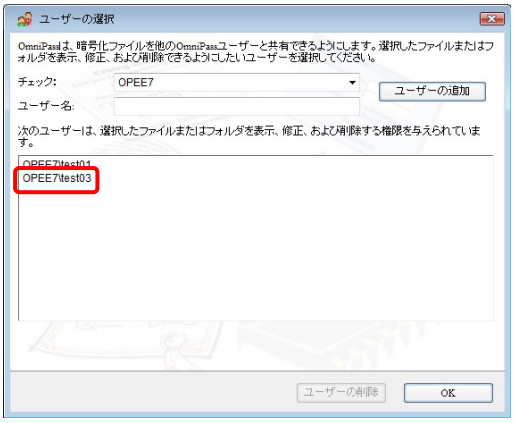


Fig. 3-53 クライアント側
OmniPass 暗号化ファイル共有設定
（共有ユーザとして設定されたユーザは、あらかじめ共有リストに追加されています。）

3-2. 認証デバイスの管理　<サーバ側>

OmniPass Management Console(サーバ側管理コンソール)から各 OmniPassEE クライアントユーザの認証デバイスの各設定を行うことができます。

「スタートメニュー」から「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 管理コンソール」を実行すると、OmniPass Management Console が起動します。

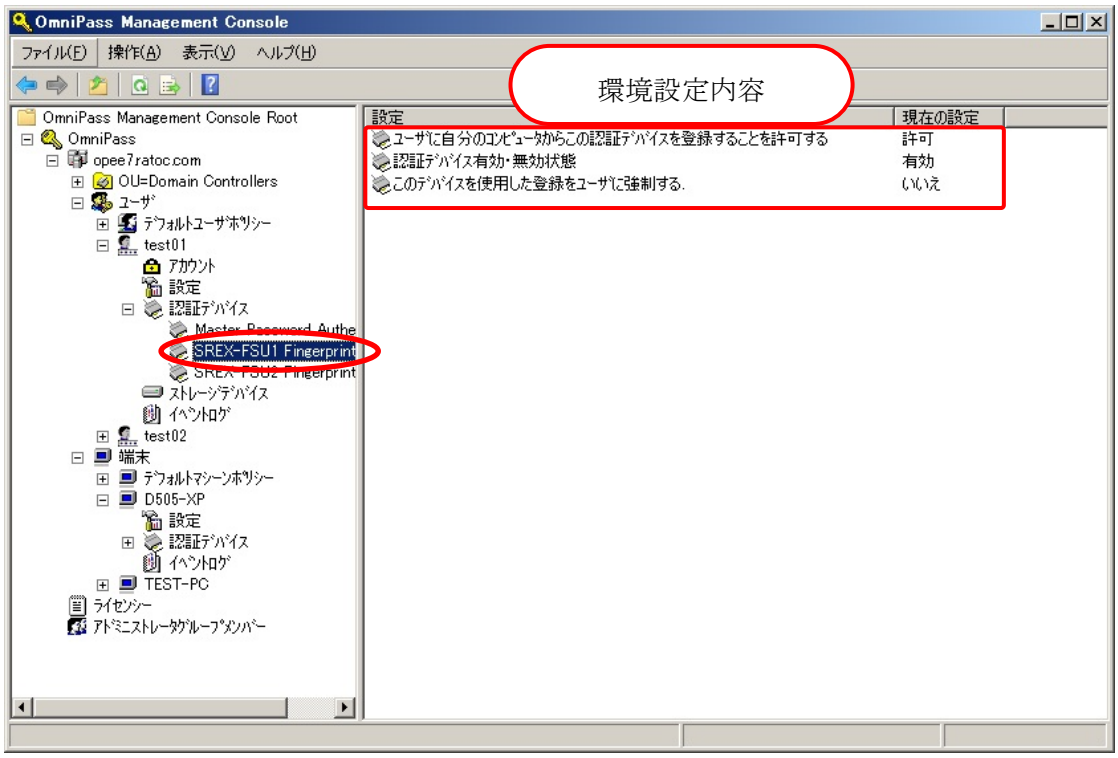


Fig.3-54　OmniPass Management Console

「OmniPass」→「ドメイン名」→「ユーザ」→ 「クライアントユーザ名」→「認証デバイス」→「使用デバイス」の「設定」キーをクリックします。
次頁以降にて、各項目の説明と設定方法を解説します。

ユーザに自分のコンピュータからこの認証デバイスを登録することを許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが認証デバイスを使用して指紋登録することを許可または禁止します。

「許可」　　-- OmniPassEE クライアントユーザは認証デバイスを使用して指紋登録することができます。

「許可しない」 -- OmniPassEE クライアントユーザは認証デバイスを使用して指紋登録することができません。

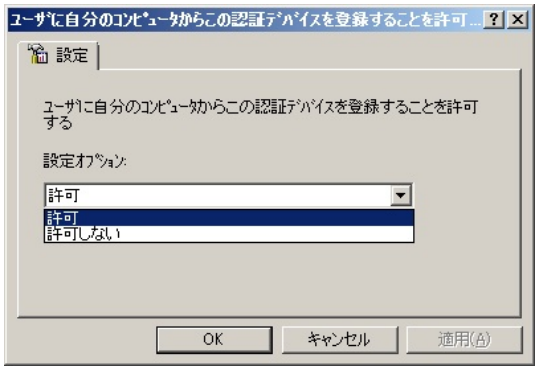


Fig. 3-55 サーバ側管理コンソール

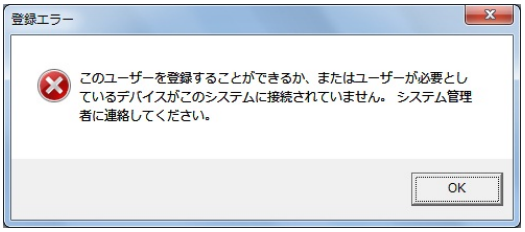


Fig. 3-56 クライアント側コンソール
設定が「許可しない」の場合

認証デバイス有効・無効状態

デフォルト設定：「有効」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが登録している認証デバイスを有効または無効とします。

「有効」-- OmniPassEE クライアントユーザは認証デバイスを使用することができます。

「無効」-- OmniPassEE クライアントユーザは認証デバイスを使用できません。

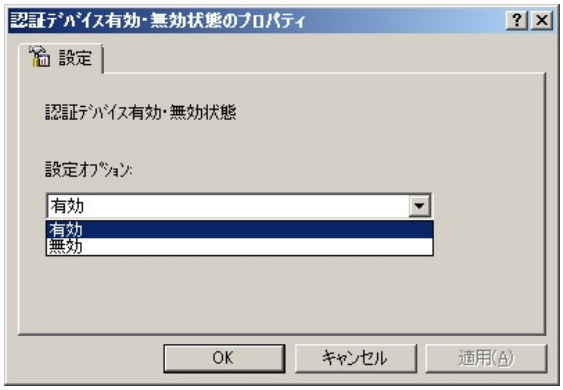


Fig. 3-57 サーバ側管理コンソール

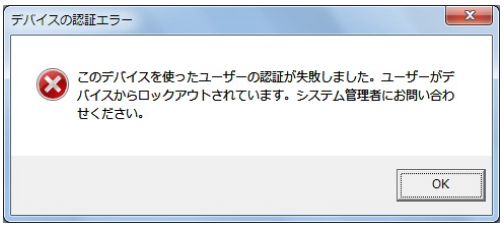


Fig. 3-58 クライアント側コンソール
設定が「無効」の場合

このデバイスを使用した登録をユーザに強制する

デフォルト設定：「いいえ」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが OmniPassEE サーバにログオンした際、強制的にこの認証デバイスでの登録を行わせることができます。

[次のログインでデバイスを強制登録]にチェックを入れると、この設定の値は「はい」になります。

「ユーザがログオンした最初の端末でデバイスを強制登録」

-- この設定が行われた後、OmniPassEE クライアントユーザが初めて OmniPassEE クライアント PC にログオンした時に指紋登録を行わせます。

「ユーザがログオンした全ての端末でデバイスを強制登録」

-- この設定が行われた後、OmniPassEE クライアントユーザがログオンした全ての OmniPassEE クライアント PC で指紋登録を行わせます。

「指定された端末でユーザがログオンした時デバイスを強制登録」

-- この設定が行われた後、指定された OmniPassEE クライアント PC に OmniPassEE クライアントユーザがログオンした時に指紋登録を行わせます。

Fig. 3-59 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-60 クライアント側コンソール
[ログオン後に表示される指紋登録画面]

3-3. OmniPassEE クライアント PC の管理　<サーバ側>

OmniPass Management Console(サーバ側管理コンソール)から各 OmniPassEE クライアント PC の各設定を行うことができます。

「スタートメニュー」から「すべてのプログラム」→「Softex」→「OmniPass 管理コンソール」を実行すると、OmniPass Management Console が起動します。

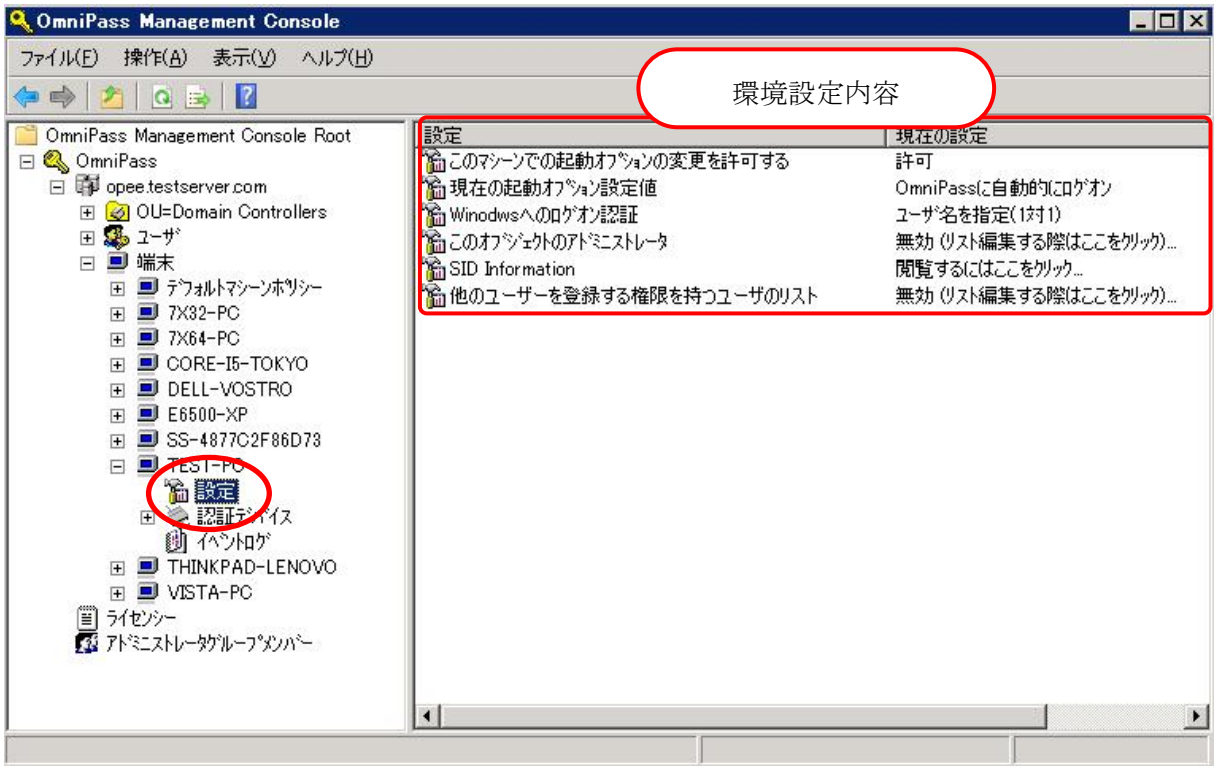


Fig.3-61 OmniPass Management Console

「OmniPass」→「ドメイン名」→「端末」→ 「PC 名」の「設定」キーをクリックします。
次頁以降にて、各項目の説明と設定方法を解説します。

このマシーンでの起動オプションの変更を許可する

デフォルト設定：「許可」

この設定では、OmniPassEE クライアントユーザが「OmniPass 起動オプションの変更」の設定を変更することを許可または禁止する。

(※ 「OmniPass 起動オプションの変更」の各内容については、次ページの説明をご参照ください)

「許可」　　-- OmniPassEE クライアントユーザは「OmniPass 起動オプションの変更」の設定を変更することができます。

「許可しない」-- OmniPassEE クライアントユーザは「OmniPass 起動オプションの変更」の設定を変更することができません。

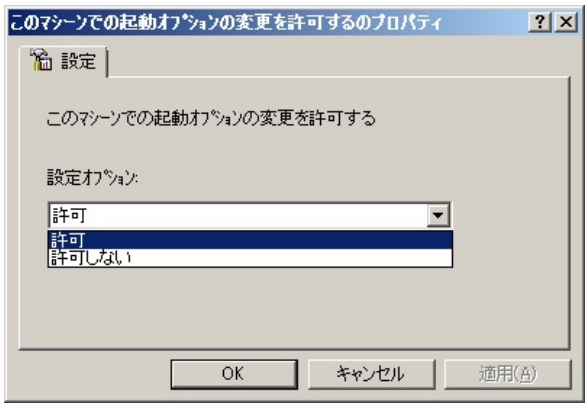


Fig. 3-62 サーバ側管理コンソール

Fig. 3-63 クライアント側コンソール
設定が「許可しない」の場合

現在の起動オプション設定値

デフォルト設定：「OmniPass に自動的にログオン」

この設定では、この OmniPassEE クライアント PC にログオンした OmniPassEE クライアントユーザが、どのようにして OmniPassEE へログオンするかを設定します。

「OmniPass に自動的にログオン(現在の Windows ユーザとして OmniPass に自動的にログオンする)」

-- OmniPassEE クライアント PC へログオンした OmniPassEE クライアントユーザとして、OmniPassEE に自動的にログオンします。

「手動ログオン（起動時に手動で OmniPass にログオンする)」

-- OmniPassEE クライアント PC へログオンした後に、手動で OmniPassEE へログオンします。

「ログオンしない（起動時に OmniPass にログオンしない)」

-- OmniPassEE クライアント PC へログオンした後は、OmniPassEE へログオンしません。

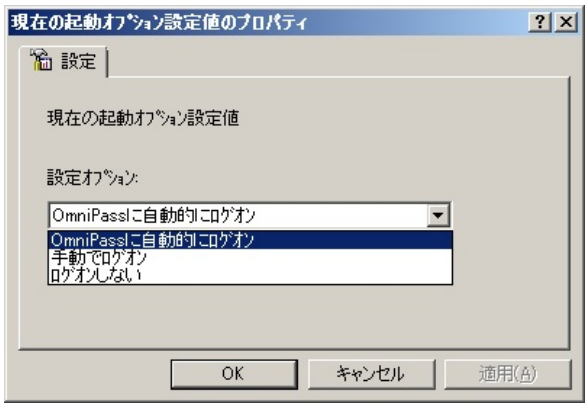


Fig.3-64 サーバ側管理コンソール

Fig.3-65 クライアント側コンソール

OmniPassEE クライアントユーザ側で「OmniPass 起動オプションの変更」を設定させるには、前頁の「このマシーンでの起動オプションの変更を許可する」を「許可」に設定する必要があります。

Windows へのログオン認証

デフォルト設定：「ユーザ名を指定(1 対 1)」

この設定では、Windows ログオン時のユーザ認証方式について設定します。

「ユーザ名を指定(1 対 1)」

-- Windows ログオンダイアログに入力されているユーザ名を参照し、そのユーザ名に対応する認証情報を使用して照合を行います。
特定のユーザ名を入力する作業が必要ですが、照合の対象を特定のユーザ情報に絞ることができるため、照合に要する時間を大幅に短縮することができます。
(登録ユーザ数が多いシステムに有効です。)

「登録データと認証(1 対 N)」

-- OmniPassEE サーバに登録されているすべての認証情報と照合を行います。
特定のユーザ名を入力する必要はありませんが、登録ユーザ数が多いシステムにおいては照合に時間を要します。また、指紋取得時に常に認証データと照合を行ないますので、ネットワーク上でより負荷がかかります。

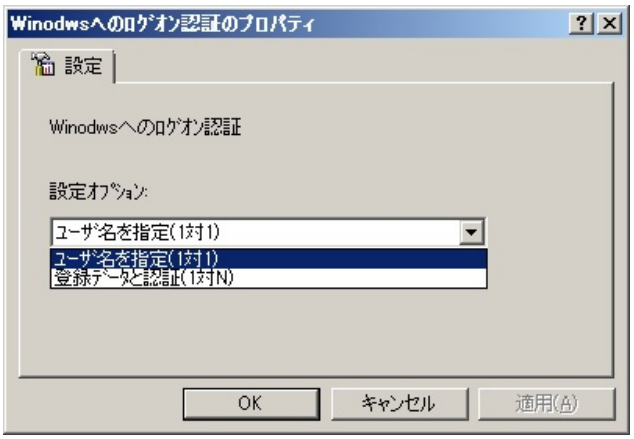


Fig.3-66 サーバ側管理コンソール

このオブジェクトのアドミニストレータ

デフォルト設定：「無効」

この設定では、選択されている OmniPassEE クライアント PC の管理者として、任意の OmniPassEE クライアントユーザを追加することができます。
「選択」をクリックし追加する OmniPassEE クライアントユーザを指定します。
（「2-5-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様に OmniPassEE クライアントユーザを選択します。）
リストにユーザを追加することで設定値は有効となります。
リストからユーザをすべて削除すると、設定値は無効になります。

右図は「test02」を追加した例です。
「test02」はサーバ PC へローカルログオン後にサーバ側管理コンソールにて、
この OmniPassEE クライアント PC の各設定を行うことができます。

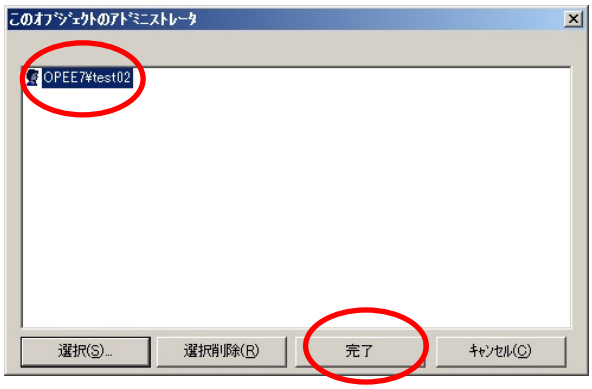


Fig. 3-67 サーバ側管理コンソール

この設定で追加されたユーザ以外は、サーバ側管理コンソールでこの PC を管理することができなくなります。設定を解除するためには、[このオブジェクトのアドミニストレータ] リストに指定されたユーザとしてサーバ PC にローカルログオンし、リストからユーザ名を削除する必要があります。
サーバ PC にローカルログオンする際に、ユーザにはドメイン管理者の権限を与える必要があります。

SID Information

この設定では、OmniPassEE クライアント PC の SID 情報を閲覧することができます。

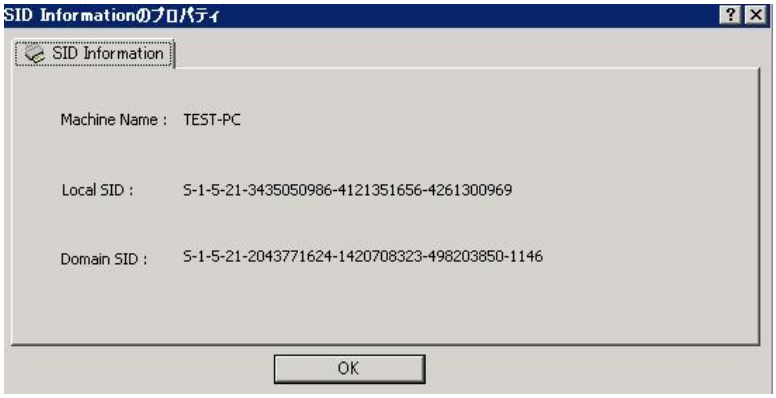


Fig.3-68 サーバ側管理コンソール

他のユーザーを登録する権限を持つユーザのリスト

デフォルト設定：「無効」

この設定では、OmniPassEE に登録されていないユーザのうち、指定したユーザにのみ OmniPassEE ユーザを登録する権限を与えることができます。

「選択」をクリックし追加する OmniPassEE クライアントユーザを指定します。

(「2-5-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様に OmniPassEE クライアントユーザを選択します。)

リストにユーザを追加することで設定値は有効となります。

リストからユーザをすべて削除すると、設定値は無効になります。

「無効」

-- 全てのドメインユーザが、この OmniPassEE クライアント PC 上で OmniPassEE ユーザを登録することができます。

「有効」

-- リスト追加されていないドメインユーザは、この OmniPassEE クライアント PC 上で OmniPassEE ユーザを登録することはできません。

※ ただし、次のユーザはリストに追加されていない場合も OmniPassEE ユーザを登録する権限があります。

- Domain Admin 権限のあるユーザ
- 既に OmniPassEE に登録済みのユーザ

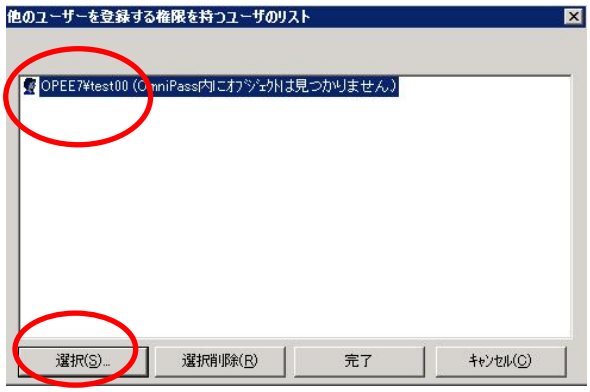


Fig. 3-69 サーバ側管理コンソール

(OmniPassEE に登録されていない「test00」を追加した例)

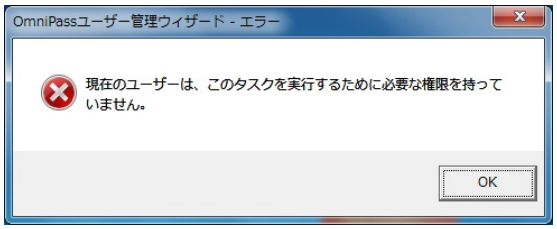


Fig. 3-70 クライアント側

(OmniPassEE ユーザを登録する権限のないドメインユーザでの警告画面)

3-4. イベントログについて

クライアントユーザ・OmniPassEE クライアント PC のイベントログ設定

各クライアントユーザ、各 OmniPassEE クライアント PC でのログを保存することができます。

・ クライアントユーザの設定

-- OmniPass Management Console の「ユーザ名」→「イベントログ」を選択します。

・ OmniPassEE クライアント PC のログ設定

-- OmniPassEE 管理コンソールの左欄から「ユーザ名」→「イベントログ」を選択します。

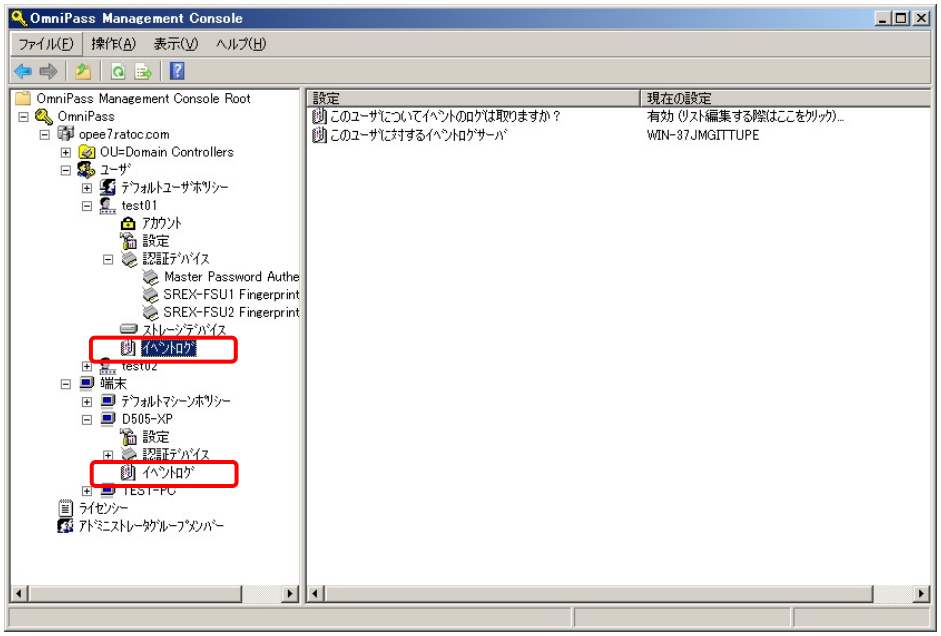


Fig. 3-71 ユーザのイベントログ

［このユーザに対するイベントログサーバ］

「このユーザに対するイベントログサーバ」をダブルクリックすると下図が表示されます。

「選択」をクリックしイベントログを保存する PC を指定します。

（「2-4-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様にイベントログを保存する PC を選択します。）

※　既にロギングする PC が設定されていて、他の PC を指定する場合は一旦リスト内から PC を選択し「選択削除」をクリックする必要があります。

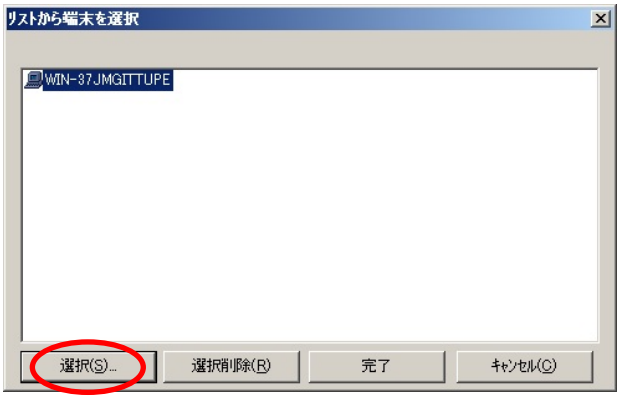


Fig. 3-72 サーバ側管理コンソール

［このユーザについてイベントのログは取りますか？］

「このユーザについてイベントのログはとりますか？」をダブルクリックすると下図が表示されます。

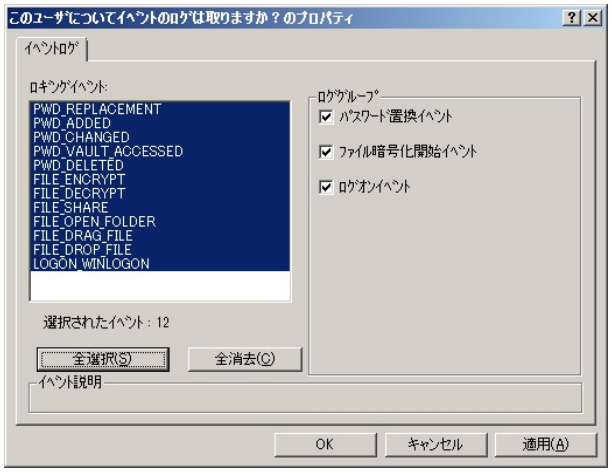


Fig.3-73 サーバ側管理コンソール

ロギングするイベントを選択して「OK」をクリックします。

「ロギングイベント」欄のキーを選択すると、ウィンドウ下部の「イベント説明」欄にそれぞれの説明が表示されます。
また、「ログループ」のチェックボックスにチェックを入れると、該当するイベントすべてが選択されます。

パスワード置換イベント	PWD_REPLACEMENT	：パスワード置換イベント
	PWD_ADDED	：パスワードダイアログ追加イベント
	PWD_CHANGED	：パスワードダイアログ更新イベント
	PWD_VAULT_ACCESSED	：パスワードダイアログアクセスイベント
	PWD_DELETED	：パスワードダイアログ削除イベント
パスワード暗号化開始イベント	FILE_ENCRYPT	：ファイル暗号化完了イベント
	FILE_DECRYPT	：ファイル復号化イベント
	FILE_SHARE	：ファイル共有化イベント
	FILE_OPEN_FOLDER	：フォルダオープンイベント
	FILE_DRAG_FILE	：暗号化ファイルドラッグイベント
	FILE_DROP_FILE	：暗号化ファイルドロップイベント
ログオンイベント	LOGON_WINLOGON	：Windows ログオンイベント

イベントログの確認

Windows の「スタートメニュー」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「イベントビューア」を開き、「OmniPass」を選択してください。

右のように、指定したイベントについてのログが「OmniPass」に保存されています。

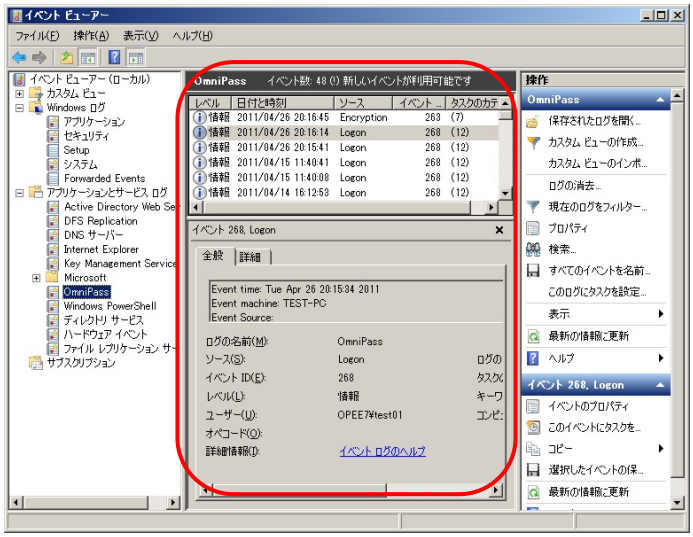


Fig.3-74 イベントビューア

(Windows Server2008 R2 での例)

3-5. ライセンスの追加

OmniPassEE では、最初に購入したクライアントライセンスが足りなくなった場合でも、簡単にライセンスを追加することができます。

⚠ ライセンスを追加するには、追加ライセンスファイルを購入していただくことが必要です。

[OmniPassEE クライアントライセンス追加の方法]

STEP 1

OmniPass Management Consol の「OmniPass」→「ライセンシー」を右クリックし「ライセンスの追加」を選択します。

Fig. 3-75 サーバ側管理コンソール

STEP 2

追加用のライセンスファイル(*.key)を選択し「開く」をクリックします。

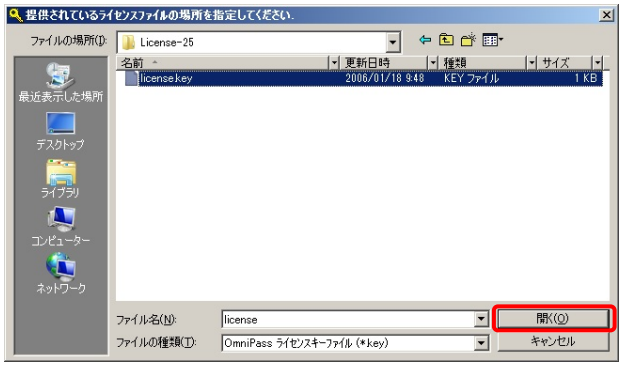


Fig. 3-76 サーバ側管理コンソール

STEP 3

「OK」をクリックします。

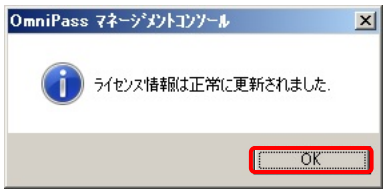


Fig. 3-77 サーバ側管理コンソール

STEP 4

ライセンスが追加されました。

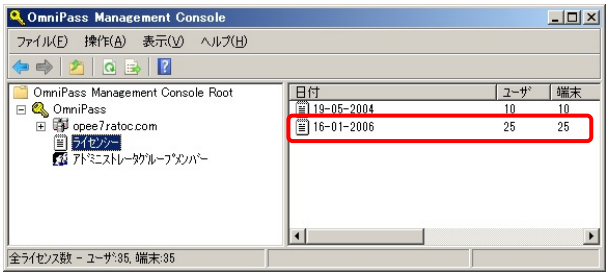


Fig. 3-78 サーバ側管理コンソール

4-1. トラブルシューティング

[サーバ側インストール時、OmniPass コンテナの作成に失敗した場合]

STEP 1

サーバ側アプリケーションのインストール時、OmniPass コンテナの作成に失敗する場合があります。

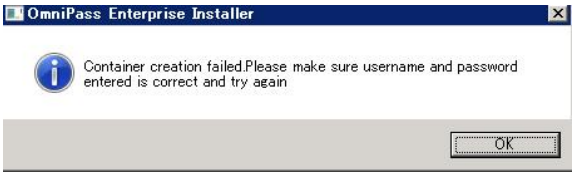


Fig. 4-1 サーバ側インストール時のエラー画面

STEP 2

サーバ側 PC のスタートメニューより「すべてのプログラム」→「管理ツール」→「Active Directory ユーザーとコンピューター」を起動します。
「Users」より OmniPassEE 管理者のプロパティを開きます。

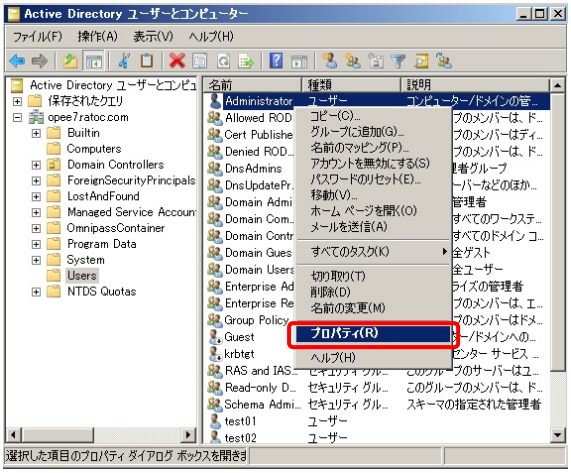


Fig. 4-2 サーバ側インストール時のエラー画面

STEP 3

「アカウント」タブを選択し「ユーザーのログオン名」に管理者のログオン名を入力し、ドメインを選択します。
「OK」をクリックし、OmniPass コンテナの作成に成功するかを確認してください。

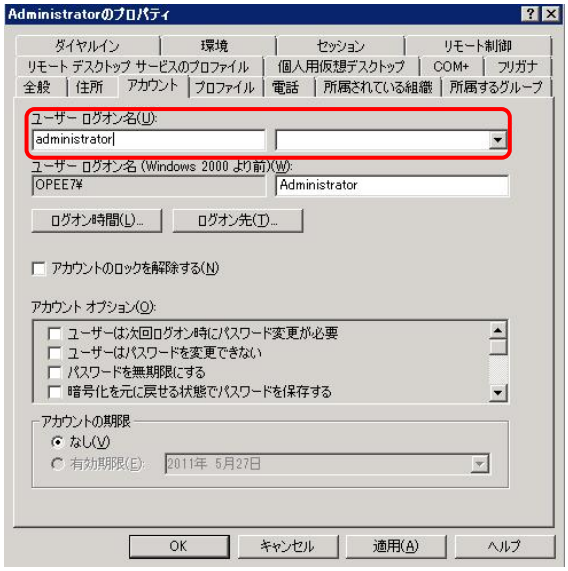


Fig. 4-3 サーバ側 ActiveDirectory の管理者プロパティ画面

4-2. OmniPassEE クライアントユーザのアカウント情報管理について

OmniPassEE 管理者は OmniPassEE クライアントユーザが登録した Web・アプリのアカウント情報を閲覧・編集することができます。
(設定方法については、第三章の「クライアントユーザのパスワード記憶情報を管理者にも公開、編集可能とすることを許可する」設定をご参照ください。)

OmniPass Management Console 上の「ユーザ名」-「アカウント」を選択し、右欄のユーザ ID をダブルクリックすることで、Fig.4-4 の画面を表示させることができます。

このプロパティから、OmniPassEE 管理者は、他のユーザへのページのコピーや、ユーザが記憶させたユーザ名、パスワードの編集、ページの削除、ファイル保存を行うことができます。

アカウント管理の各機能については、次ページより説明いたします。

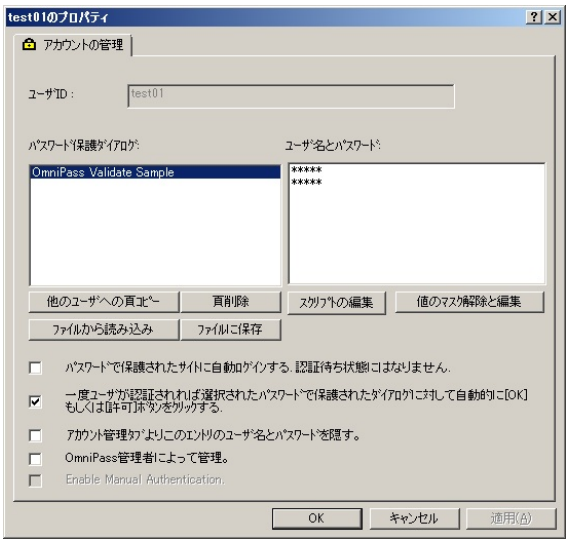


Fig.4-4 サーバ側管理コンソール

各チェックボックスについて

「パスワードで保護されたサイトに自動ログインする。 認証待ち状態にはなりません。」
-- チェックを入れると、ユーザの認証無しに登録情報が自動的に入力され、自動的にログインします。

「一度ユーザが認証されれば選択されたパスワードで保護されたダイアログに対して自動的に[OK]もしくは[許可]ボタンをクリックする。」
-- チェックを入れると、ユーザが認証され登録情報が入力された後に、ユーザが「OK」ボタンを押さなくても自動的に「OK」ボタンがクリックされます。

「アカウント管理タブよりこのエントリのユーザ名とパスワードを隠す。」
-- チェックを入れると、OmniPassEE クライアントユーザは登録情報の操作・閲覧ができません。

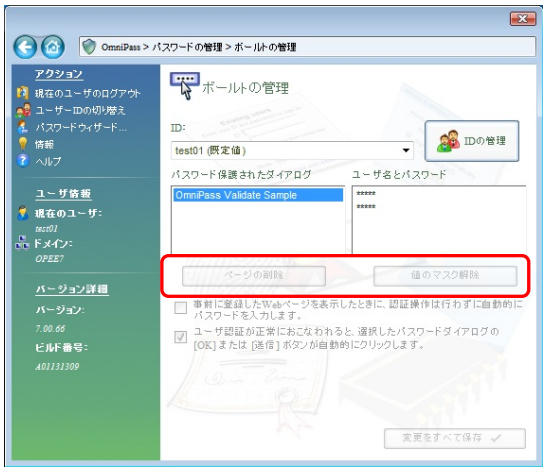


Fig. 4-5 クライアント側コンソール

「OmniPass 管理者によって管理。」
-- チェックを入れると、OmniPassEE クライアントユーザは登録情報の操作はできませんが、閲覧はできます。

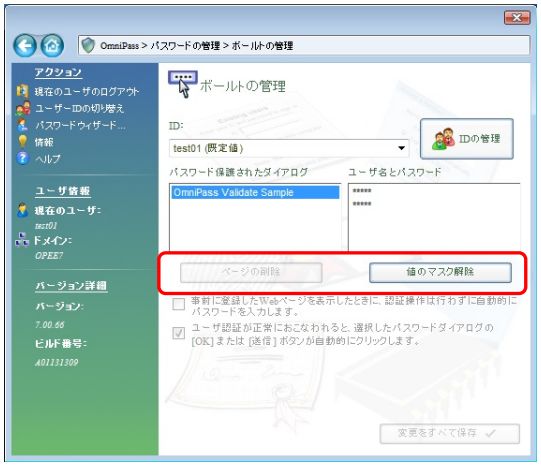


Fig. 4-6 クライアント側コンソール

[他のユーザへの頁コピー]

登録情報を他の OmniPassEE クライアントユーザへコピーする場合は、
コピーする登録情報を選択し「他のユーザへの頁コピー」をクリックします。

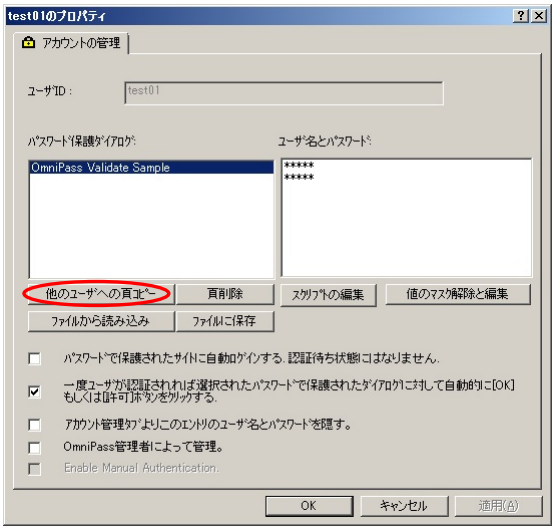


Fig. 4-7 サーバ側管理コンソール

[他のユーザへの頁コピー]-[リストからエントリにコピーするユーザを選択]

選択されている登録情報を他のユーザへコピーする場合に選択します。

STEP 1

「リストからエントリにコピーするユーザを選択」を選択し「次へ」をクリックします。

（「WEB 頁をそのまま保存する」にチェックを入れると、STEP8 は表示されずコピー元の設定が反映されます。）

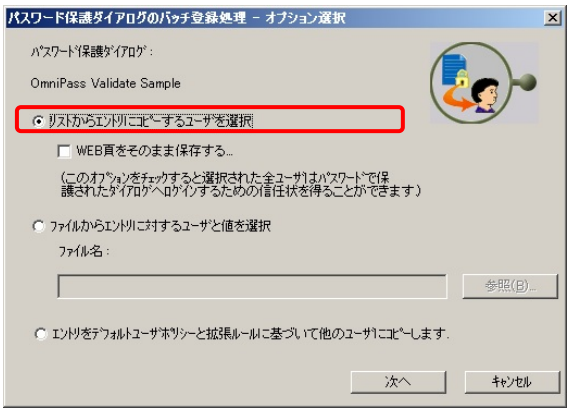


Fig. 4-8 サーバ側管理コンソール

STEP 2

「選択」をクリックします。

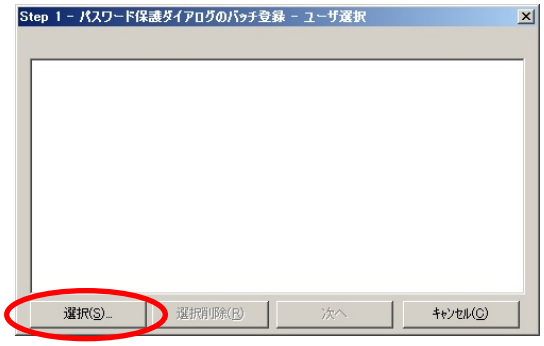


Fig. 4-9 サーバ側管理コンソール

STEP 3

「詳細設定」ボタンをクリックします。

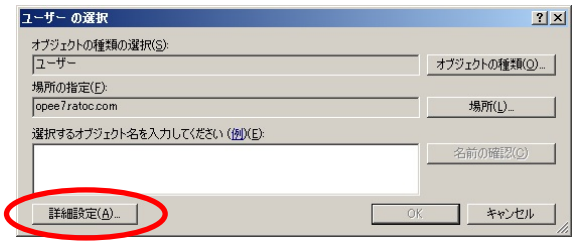


Fig. 4-10 サーバ側管理コンソール

STEP 4

「検索」をクリックします。

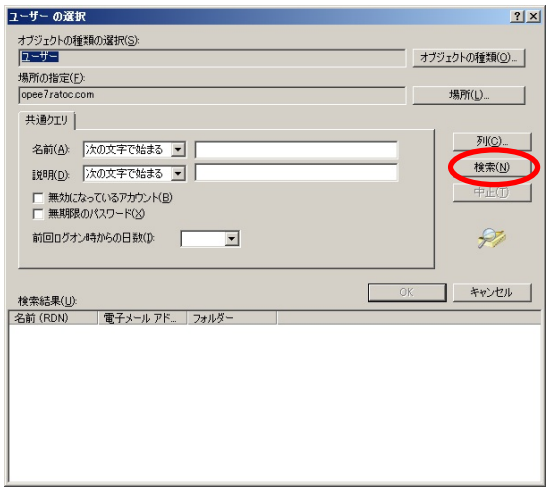


Fig. 4-11 サーバ側管理コンソール

STEP 5

検索結果が表示されます。
検索されたユーザから、ページをコピーする OmniPassEE クライアントユーザを選択し「OK」をクリックします。

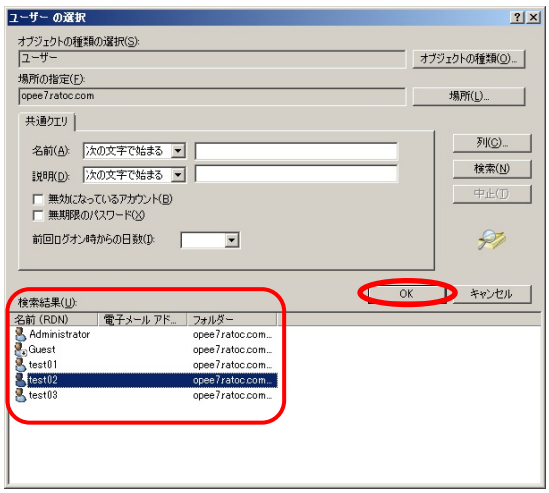


Fig. 4-12 サーバ側管理コンソール

STEP 6

選択した OmniPassEE クライアントユーザ名が表示されていることを確認し「OK」をクリックします。

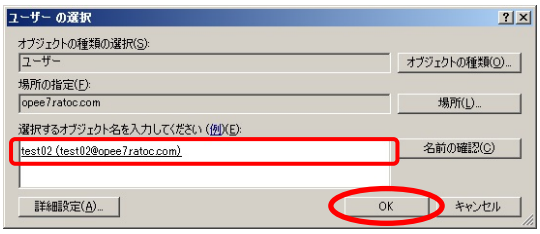


Fig. 4-13 サーバ側管理コンソール

STEP 7

選択した OmniPassEE クライアントユーザ名が表示されていることを確認し「次へ」をクリックします。

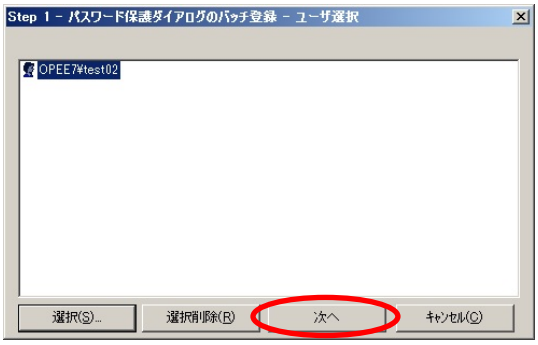


Fig. 4-14 サーバ側管理コンソール

STEP 8

必要に応じてコピーするページの各設定を行い「WEB サイト保存」をクリックします。

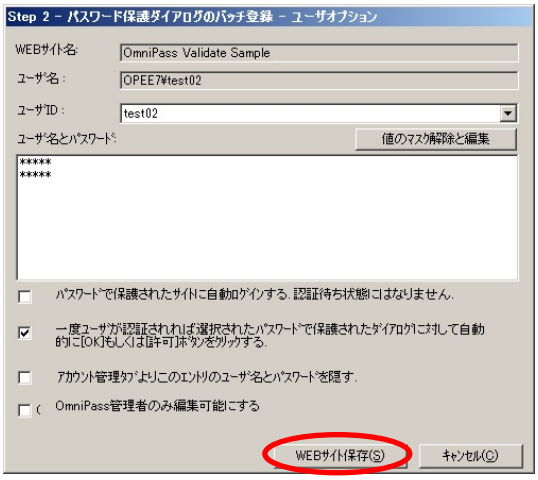


Fig. 4-15 サーバ側管理コンソール

STEP 9

コピー先の OmniPassEE クライアントユーザのプロパティを同様に開き、登録情報がコピーされていることを確認します。

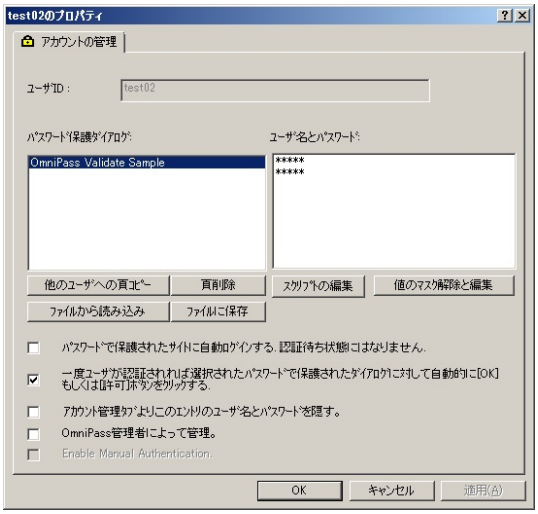


Fig. 4-16 サーバ側管理コンソール

[他のユーザへの頁コピー]-[ファイルからエントリに対するユーザと値を選択]

あらかじめファイル保存された登録情報を他の OmniPassEE クライアントユーザへコピーする場合に選択します。

STEP 1

「ファイルからエントリに対するユーザと値を選択」を選択し「参照」をクリックします。

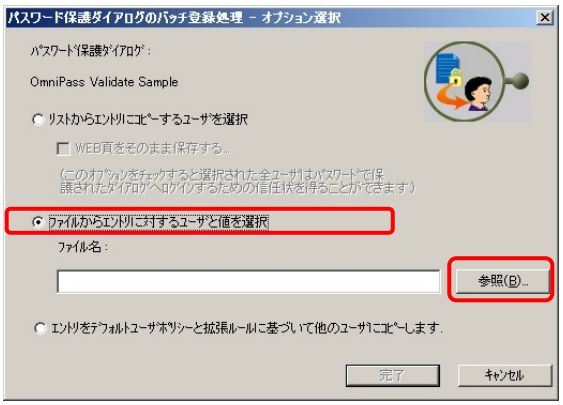


Fig. 4-17 サーバ側管理コンソール

STEP 2

ファイル保存されている情報ファイル(*.ini)を選択し「開く」をクリックします。

※ 保存時に作成した*.ini ファイルを編集してコピー先の OmniPassEE クライアントユーザと登録情報を設定することができます。

例：(test02 に ID:345/PW:efghi を追加)

[OmniPass Vault Information]

OPEE7¥test01;VaultFriendlyName=Web Login;,123,abcde,,;;

OPEE7¥test02;VaultFriendlyName=Web Login;,345,efghi,,;;

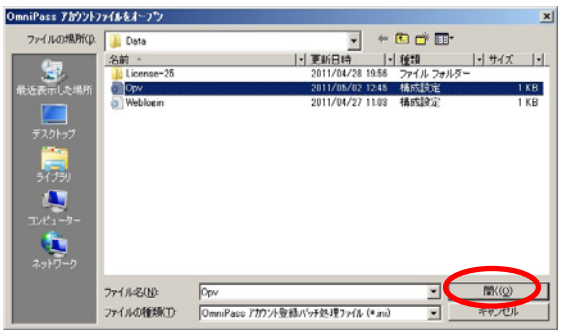


Fig. 4-18 サーバ側管理コンソール

STEP 3

「完了」をクリックします。

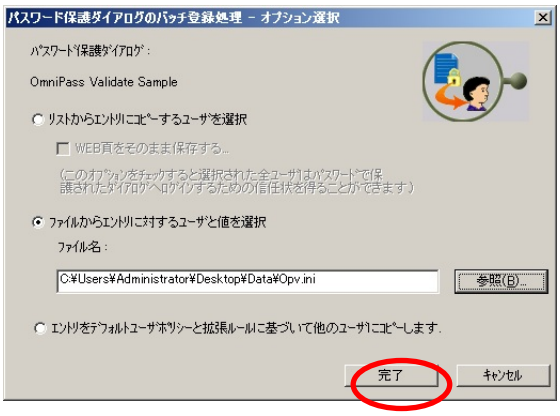


Fig. 4-19 サーバ側管理コンソール

[他のユーザへの頁コピー]- [エントリをデフォルトユーザポリシーと拡張ルールに基づいて他のユーザにコピーします。]

登録情報をデフォルトユーザポリシーと他のすべての OmniPassEE クライアントユーザへコピーします。

STEP 1

「エントリをデフォルトユーザポリシーと拡張ルールに基づいて他のユーザにコピーします」を選択し「次へ」をクリックします。

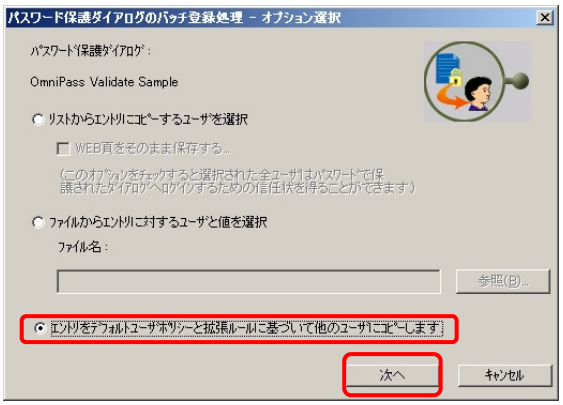


Fig. 4-20 サーバ側管理コンソール

STEP 2

必要に応じて各設定を行い「WEB サイト保存」をクリックします。

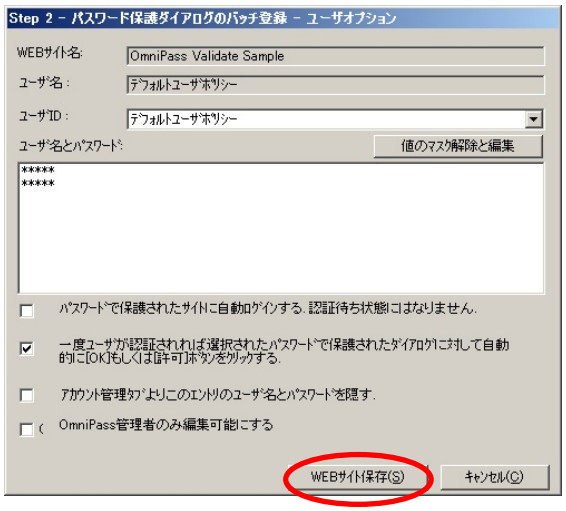


Fig. 4-21 サーバ側管理コンソール

［頁削除］

STEP 1

表示されている登録情報を削除する場合は、
「頁削除」をクリックします。

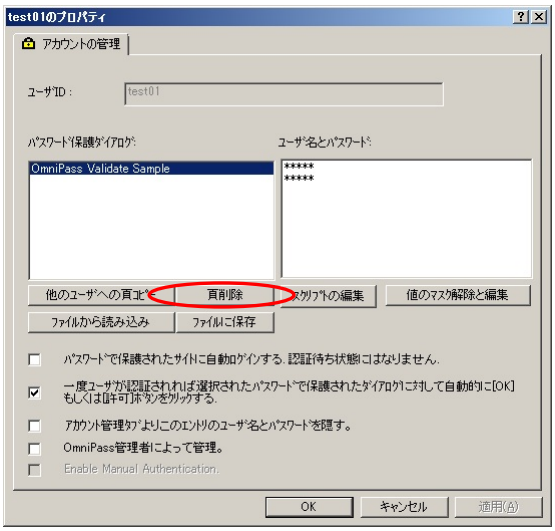


Fig. 4-22 サーバ側管理コンソール

STEP 2

削除する場合は「はい」をクリックします。

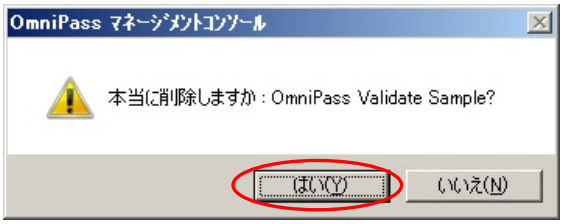


Fig. 4-23 サーバ側管理コンソール

［スクリプトの編集］

STEP 1

登録情報を編集する場合は「スクリプトの編集」をクリックします。

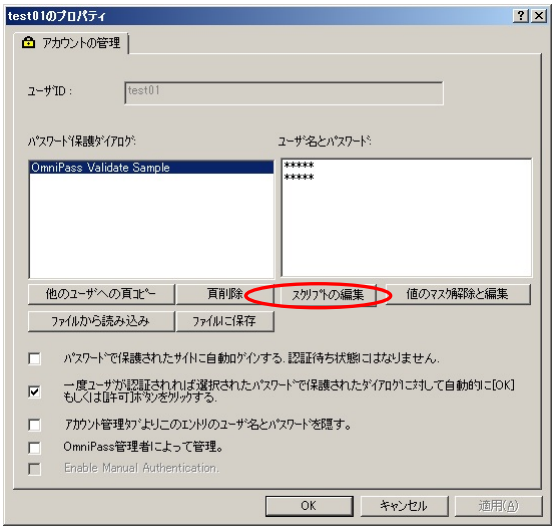


Fig. 4-24 サーバ側管理コンソール

STEP 2

編集する内容を選択し「フィールド値」を変更後に「OK」をクリックします。

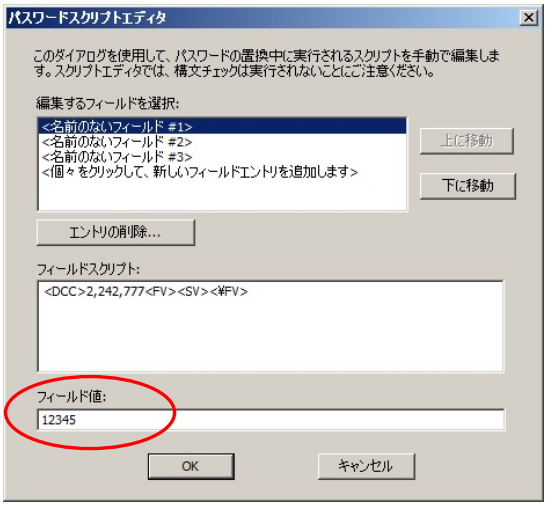


Fig. 4-25 サーバ側管理コンソール

［値のマスク解除と編集］

STEP 1

「値のマスク解除と編集」をクリックすると、「ユーザ名とパスワード」のマスク表示が解除され、登録情報の編集を行うことができます。

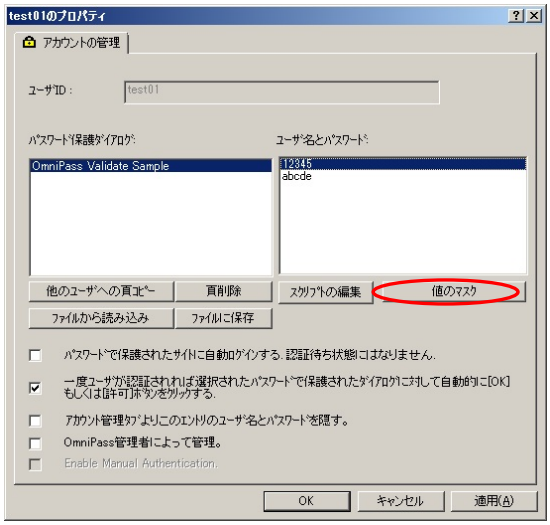


Fig. 4-26 サーバ側管理コンソール

STEP 2

右図のように直接編集を行います。

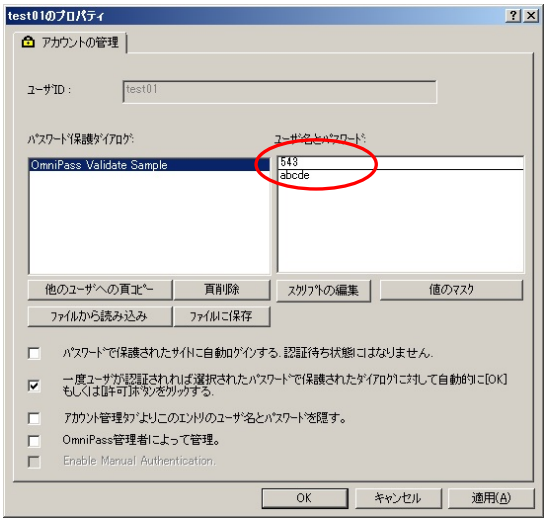


Fig. 4-27 サーバ側管理コンソール

［ファイルから読み込み］

STEP 1

保存された登録ページから読み込むには「ファイルから読み込み」をクリックします。

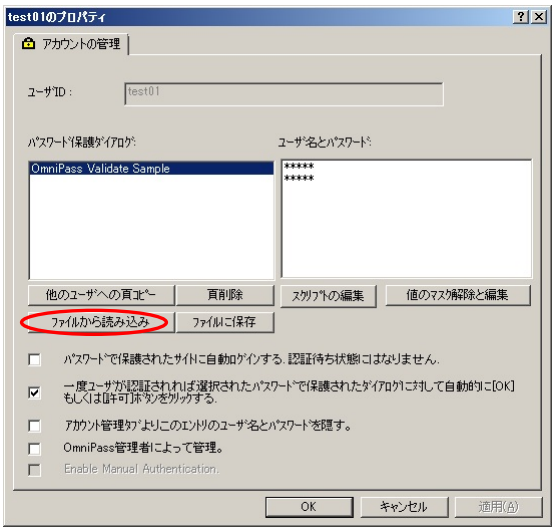


Fig. 4-28 サーバ側管理コンソール

STEP 2

読み込むファイル(*.opv)を選択し「開く」をクリックします。

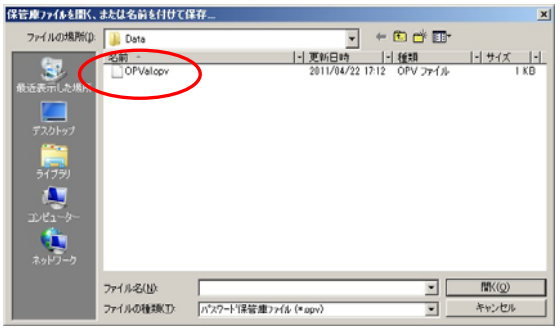


Fig. 4-29 サーバ側管理コンソール

STEP 3

読み込みに成功しました。「OK」をクリックします。

※　登録ページの情報のみコピーされます。ユーザ名とパスワードはコピーされませんので、スクリプトを編集して必要な情報を保存してください。

Fig. 4-30 サーバ側管理コンソール

［ファイルに保存］

STEP 1

選択された登録情報を保存するには「ファイルに保存」をクリックします。

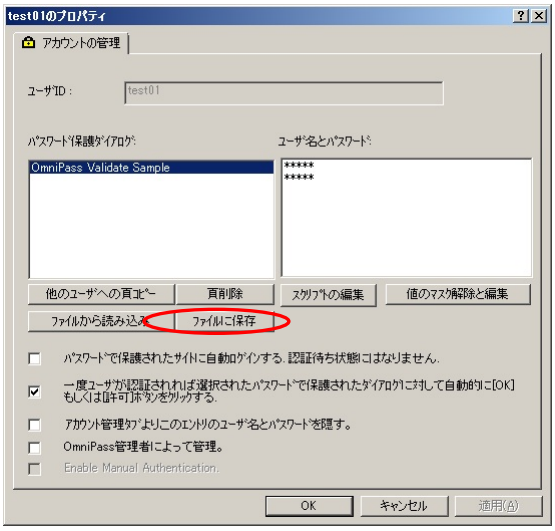


Fig. 4-31 サーバ側管理コンソール

STEP 2

保存するファイル名を入力し「保存」をクリックします。

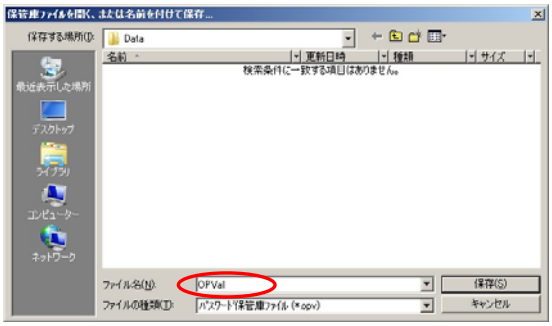


Fig. 4-32 サーバ側管理コンソール

STEP 3

登録情報を他の OmniPassEE クライアントユーザへコピーする際に編集することができる ini ファイルを作成する場合は「はい」をクリックします。

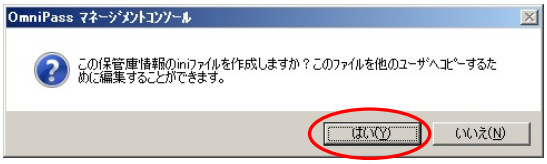


Fig. 4-33 サーバ側管理コンソール

STEP 4

保存するファイル名を入力し「保存」をクリックします。

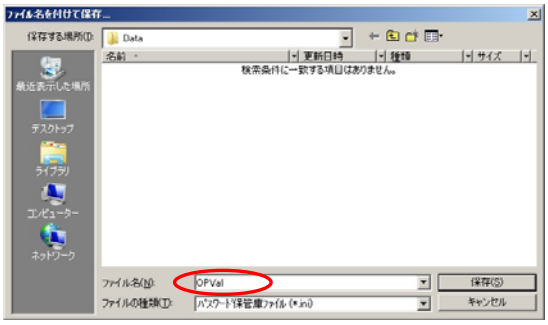


Fig. 4-34 サーバ側管理コンソール

STEP 5

以上で登録情報の保存は完了です。

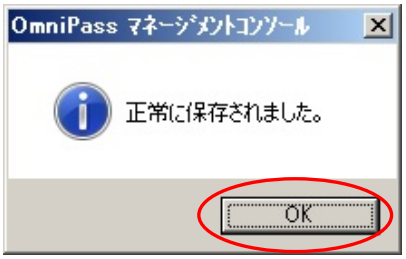


Fig.4-35 サーバ側管理コンソール

4-3. OmniPassEE クライアントユーザの緊急ポリシーオーバーライド設定について

OmniPassEE 管理者は、OmniPassEE クライアントユーザが認証できない場合の認証方法を設定することができます。
ここでは、OmniPassEE サーバ側が発行する認証コードでの認証方法(認証コード発行)について説明いたします。
(設定方法については、第三章の「ユーザの緊急ポリシーオーバーライド」設定をご参照ください。)

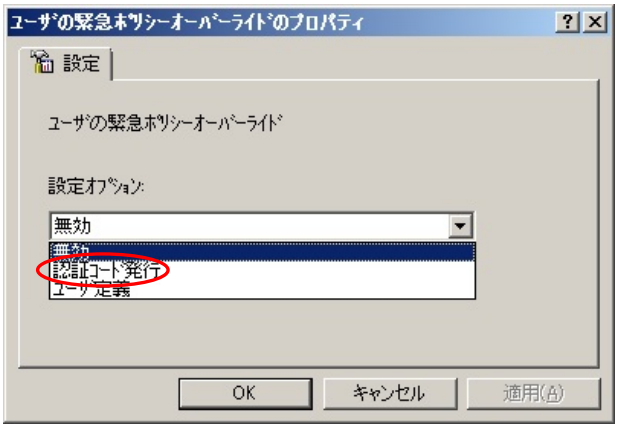


Fig.4-36 サーバ側管理コンソール

STEP 1

OmniPassEE クライアントユーザが認証できない場合に「ログインできません」をクリックすると、「緊急ポリシーオーバーライド」の画面が表示され、認証コード発行用の「問題コード」が発行されます。

Fig. 4-37 クライアント側コンソール

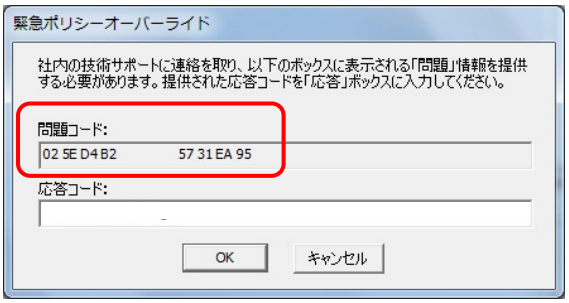


Fig. 4-38 クライアント側コンソール

STEP 2

OmniPassEE 管理者は、OmniPassEE クライアントユーザ側で生成された「問題コード」を次のアプリケーションに入力します。

64bit 版 OS：[CD-ROM]¥Enterprise¥Enterprise_x64¥Response¥Response_x64.exe

32bit 版 OS：[CD-ROM]¥Enterprise¥Enterprise_x32¥Response¥Response_x32.exe

「応答の生成」をクリックすると、認証用の「応答コード」が生成されます。

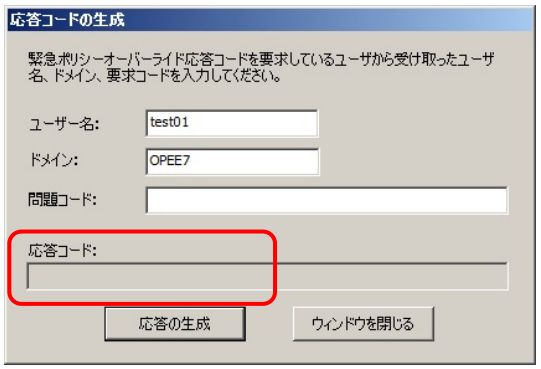


Fig. 4-39 サーバ側認証コード発行アプリ

STEP 3

OmniPassEE クライアントユーザは、OmniPassEE 管理者より発行された「応答コード」を入力し「OK」をクリックすることで認証されます。

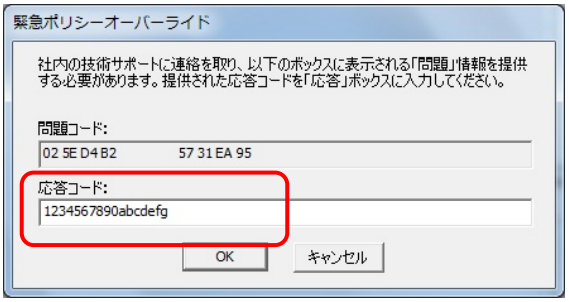


Fig. 4-40 クライアント側コンソール

4-4. OmniPassEE クライアントユーザの認証規則の設定について

OmniPass Management Console では、OmniPassEE クライアントユーザの認証規則について設定することができます。

「OmniPass」→「ドメイン名」→「ユーザ」→「クライアントユーザ名」→「認証デバイス」キーを右クリックし「認証規則の設定」をクリックします。

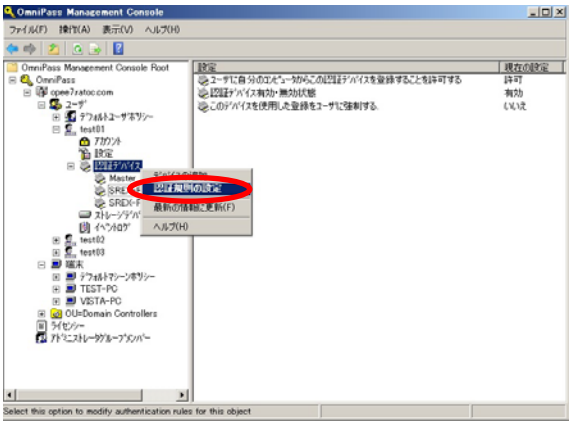


Fig. 4-41 サーバ側管理コンソール

認証規則の設定画面が表示されますので、OmniPassEE クライアントユーザの各認証規則を設定することができます。
(OmniPassEE サーバ PC が 64bit OS の場合、SREX-FSU1 の認証規則を変更することができません。)

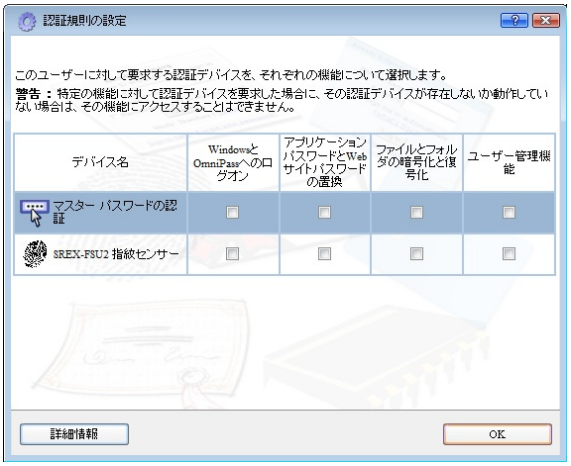


Fig. 4-42 サーバ側管理コンソール

※ チェックを入れた項目の認証が必須となりますが、OmniPassEE クライアントユーザ側でも設定を変更することができます。
OmniPassEE クライアントユーザ側で設定変更させたくない場合は、52 頁の「ユーザに認証規則とポリシーの設定を許可する」を「許可しない」に設定してください。

4-5. デフォルトユーザポリシーの設定について

OmniPass Management Console では、登録されているすべての OmniPassEE クライアントユーザの各設定を一括で設定することができます。

※　以下の説明では OmniPassEE クライアントユーザの設定をおこなっていますが、OmniPassEE クライアント PC についても同様に設定することができます。

【設定】

「OmniPass」→「ドメイン名」→「ユーザ」→「デフォルトユーザポリシー」→「設定」キーをクリックし設定項目を表示します。

例では、「ユーザに認証規則とポリシーの設定を許可する」をデフォルト値の「許可」から「許可しない」に変更しています。

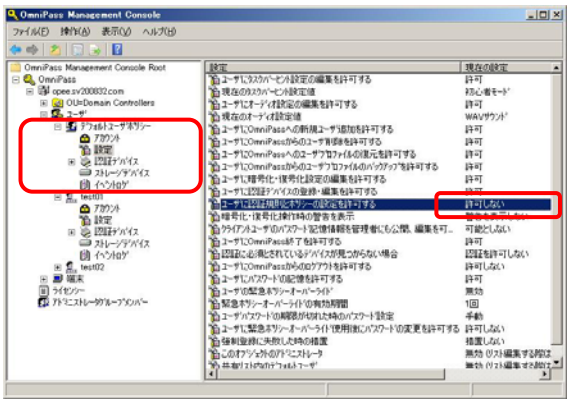


Fig. 4-43 サーバ側管理コンソール

【確認】

例では、「test01」の設定が変更されていることを確認しています。
(変更した項目はすべての OmniPassEE クライアントユーザに反映されます。)

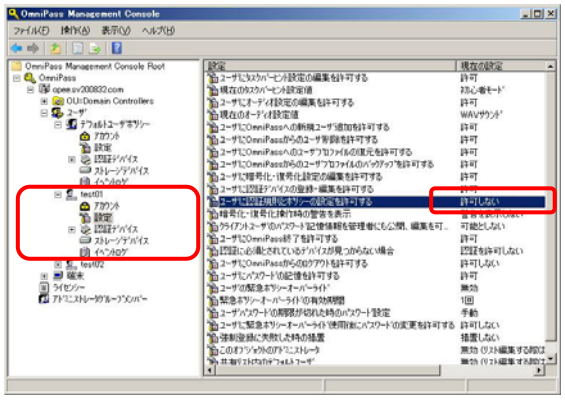


Fig. 4-44 サーバ側管理コンソール

4-6. アドミニストレータグループメンバーの設定について

OmniPass Management Console では、クライアント PC を OmniPassEE サーバに接続する権限を持つユーザを追加することができます。(アドミニストレータグループメンバー)
(参照 :「2-4-1. クライアント PC から接続」)

【ユーザの追加】

「OmniPass」→「ドメイン名」→「アドミニストレータグループメンバー」キーを右クリックし「メンバーの追加」をクリックします。
(「2-5-2. OmniPass Management Console から追加」の STEP2 からの手順と同様にユーザを追加します。
※ ここで追加するユーザは OmniPassEE クライアントユーザでなくても構いません。)

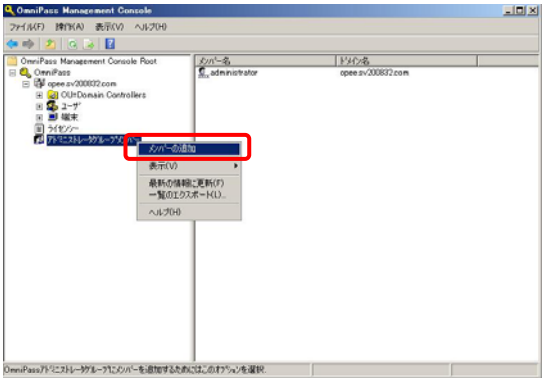


Fig. 4-45 サーバ側管理コンソール

ユーザが追加されたことを確認します。

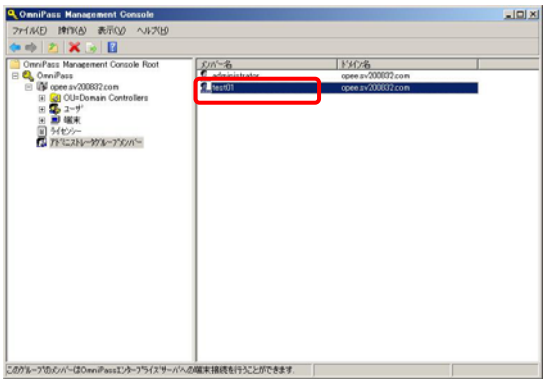


Fig. 4-46 サーバ側管理コンソール

クライアント PC 側から、クライアント PC を OmniPassEE サーバに接続する際、追加されたユーザのユーザ名とパスワードを使用して接続することができます。

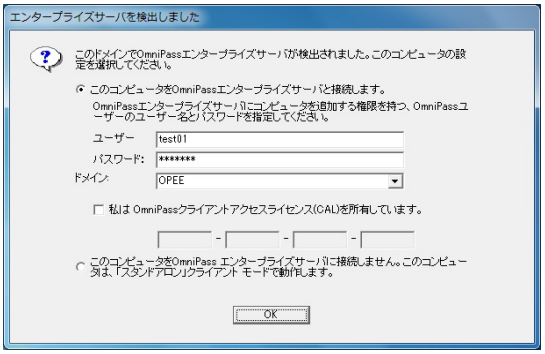


Fig. 4-47 クライアント側コンソール

【ユーザの削除】

「アドミニストレータグループメンバー」を削除するには、削除するユーザ名を右クリックし「削除」をクリックします。

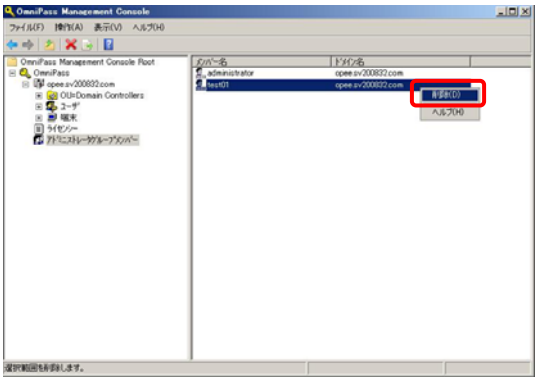


Fig. 4-48 サーバ側管理コンソール

用語集

[本マニュアル内での用語定義]

OmniPassEE	OmniPass Enterprise Edition の略です。
サーバアプリケーション	OmniPassEE のサーバ側にインストールするアプリケーションで、OmniPass とサーバ側管理コンソールもインストールされます。
クライアントアプリケーション	OmniPassEE のクライアント側にインストールする OmniPass です。
AD	Active Directory の略です。
ADAM	Active Directory Application Mode の略です。
AD LDS	Active Directory Lightweight Directory Service の略です。
OmniPassEE サーバ PC	OmniPassEE でサーバとなる PC です。
OmniPassEE クライアント PC	OmniPassEE でクライアントとなる PC です。OmniPassEE クライアント PC になるには、クライアントアプリケーションのインストールと OmniPassEE サーバ PC への接続が必要です。
OmniPassEE クライアントユーザ	OmniPassEE でクライアントとなるユーザです。OmniPassEE クライアントユーザになるには、OmniPassEE サーバへのユーザ登録が必要です。
サーバ側管理コンソール (OmniPass Management Console)	OmniPassEE のサーバ側にインストールされる OmniPassEE の管理ツールです。このツール上から OmniPassEE クライアントユーザ・PC についての各種設定を行います。
クライアント側コンソール	OmniPassEE クライアント PC で使用する OmniPass が表示する画面です。
OmniPass データコンテナ	OmniPassEE サーバ PC に保存されている OmniPassEE 用のデータコンテナです。OmniPass データコンテナには、OmniPassEE クライアントユーザ・PC・ライセンスの情報が保存されます。
OmniPass Instance	サーバ側アプリケーションのインストール時、ADAM/AD LDS へのインストールを選択した場合に追加される OmniPass 用のインスタンスです。
デフォルトユーザポリシー	サーバ側管理コンソールであらかじめ準備されている OmniPassEE クライアントユーザ・PC のデフォルト設定値です。サーバ側管理コンソールから OmniPassEE クライアントユーザ・PC を追加した場合、各設定値はデフォルトユーザポリシーが反映されます。

FAX：06−6633−8285

RATOC SREX-OPEEV3 質問用紙

●下記ユーザ情報をご記入願います。

法人登録の方のみ	会社名・学校名			
	所属部署			
ご担当者名				
E-Mail				
住所	〒			
TEL		FAX		
製品型番		シリアル№		
ご購入情報	販売店名		購入日	

●下記運用環境情報とお問い合わせ内容をご記入願います。

【パソコン/マザーボードのメーカ名と機種名】 サーバ：　　クライアント PC：
【ご利用の OS】 サーバ：　　クライアント PC：
【OmniPassEE のバージョン】
【使用している認証デバイス】
【お問合せ内容】

個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。

RATOC Systems, Inc.